

資料4

小児慢性特定疾病児童等
自立支援事業推進事業立ち上げ支援

熊本県 実態把握調査

PwCコンサルティング合同会社
2024/1/10



Agenda

1. 保護者向け調査の単純集計結果 まとめ
2. 保護者向け調査の単純集計結果 資料
3. 保護者向け調査のクロス集計結果 まとめ
4. 保護者向け調査のクロス集計結果 資料
5. 子ども向け調査の単純集計結果 資料

1

保護者向け調査の
単純集計結果 まとめ

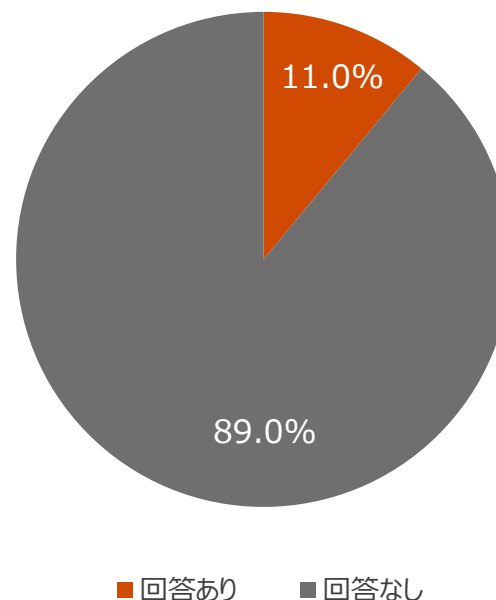
1. 実態把握調査の概要

本事業における熊本県の調査は、9月末～11月初旬の実査期間約1か月間で実施しました。回答があったのは、調査票を送付した934名の約11%にあたる102名でした。

調査概要

- 実査期間：
9月30日～11月3日
- 調査対象：小児慢性特定疾病医療受給者証をお持ちのご家庭
- 調査方法：Web調査

調査票を送付した対象者のうち、 回答があった数（n=934）



2-1. 単純集計の結果概要

「子どもの状況」「医療や福祉サービス」の単純集計結果を整理しました。

単純集計の結果（全体の傾向）

子どもの状況

- 主病の診断を受けた時期は、「出生前」と回答したのは10%。
・「出生後」のうち、最も多かったのは、「0歳」37%、次点は「1歳」12%。
- 直近1年以内に小児慢性特定疾病を理由とした入院があった割合は36%。
・直近1年間の病院への通院頻度は、「月に1回程度」47%、「半年に2～3回程度」21%、「月に2～3回程度」17%。
- 子どもの病気について家族以外で伝えている人は、「学校の先生」「あなたの知人・友人」72%、「子どもの友達の保護者」38%。
- 家庭で医療的ケアに関して、医療的ケアを行っているのは58%（「自己注射」を医療的ケアに含めない場合は37%）であり、「自己注射」20%、「在宅酸素療法」16%、「吸引」「経管栄養管理」15%だった。
- 障害の有無は、「身体障害者手帳を持っている」35%、「療育手帳を持っている」32%、「発達障がいの診断を受けている」11%、「精神保健福祉手帳を持っている」2%。

医療や福祉サービス

- 医療や福祉サービスを利用しているのは39%。
・利用している・利用を希望するサービスは、「障害児通所支」76%、「訪問看護」44%。
・サービスを利用していない理由は、「サービスを必要としていない」79%「利用できるサービスを知らない」16%。
- 医療や福祉サービスの情報を入手する際に困ったことは、「どこを探せばよいか分からなかった」28%、「相談先が分からなかった」24%。「特に困らなかった」は59%。
- 情報の入手手段は、「医療機関」53%、「インターネット」43%。
- 自立支援事業の説明については、「わからない/覚えていない」56%、「説明を受けた」26%、「説明を受けていない」19%。

2-2. 単純集計の結果概要

「不安や悩み」「不安や悩みの相談先」「必要なサービス」の単純集計結果を整理しました。

単純集計の結果（全体の傾向）

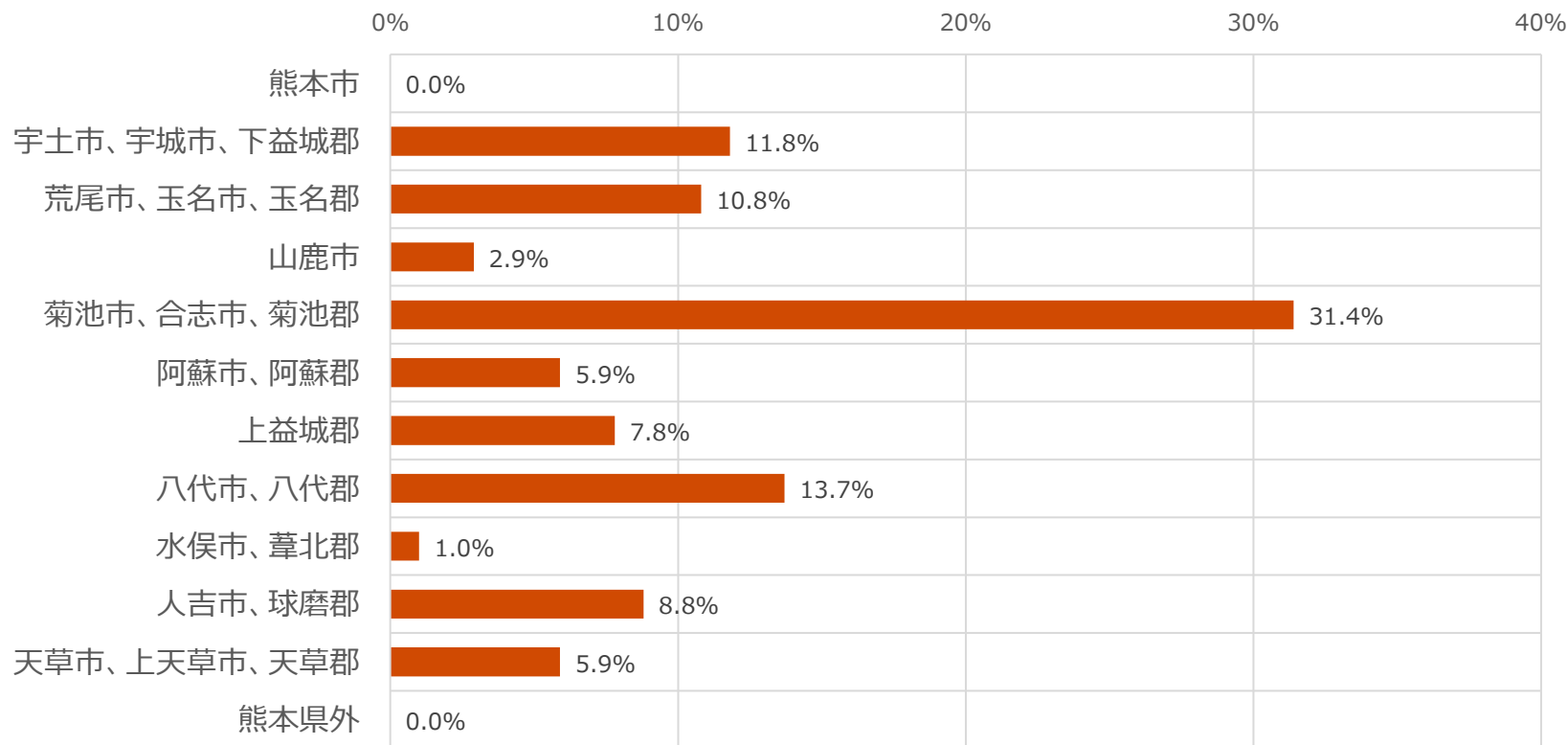
不安や悩み	- 不安や悩みの有無については、「ある」または「どちらかというところ」と回答したのは47%。 - 不安や悩みの内容は、「子どもの成長・発育への不安」「子どもの病気への悪化への不安」65%が最も多く、次点は「子どもの将来の介護・看護」58%。 - 学校や保育所等での不安は、「体力面」61%、「急変・緊急時の対応」50%。 - 就労についての不安や悩みについて、「ある」と回答したのは40%。 - 成長や自立のために重要なことは、「疾病のある子どもに対する理解促進」93%、「自治体の発信情報の分かりやすさ」89%、「同世代交流」88%、「自宅や病院での遊び/学びの機会」85%。
不安や悩みの相談先	- 相談できる相手や場所は、「同居している家族や親族」86%、「医療機関」50%、「同居していない家族や親族」47%。 「自立支援員・相談支援専門員」は19%。 - 相談しやすい手法は、「SNS（LINE等）」56%、「電話」41%、「来所」39%。 - 熊本県内の保険所及びNPO法人NEXTEPに設置されている「お子さまの生活全般に関する専用の相談窓口」で相談したい内容は、「将来の生活の見通しについて」「小児科から成人医療機関への移行について」42%、「子どもに対する他の福祉制度について」32%。 「お子さまの生活全般に関する専用の相談窓口」について「知っている」20%、「利用したことがある」3%。 - 窓口利用先は、「認定NPO法人NEXTEPの相談窓口」100%。
必要なサービス	- 乳幼児期に必要だったと思う支援やサービスは、「自治体が発信する情報のわかりやすさ」69%、「疾病のある子どもに対する理解促進」63%。 - 児童期に必要だったと思う支援やサービスは、「同世代交流」57%、「学習支援」「疾病のある子どもに対する理解の促進」54%。 - 青年期に必要だったと思う支援やサービスは、「自治体が発信する情報のわかりやすさ」70%、「同世代交流」65%、「学習支援」「保護者へのカウンセリング」「疾病のある子どもに対する理解の促進」61%。

2

保護者向け調査の
単純集計結果 資料

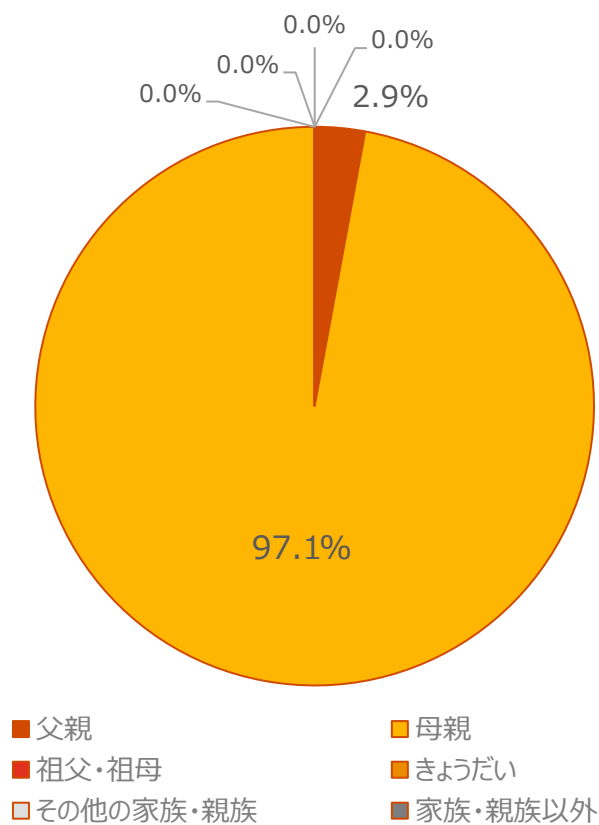
1. こどもが居住している区

Q1. お子さまのお住まいの地域お答えください。(n=102)



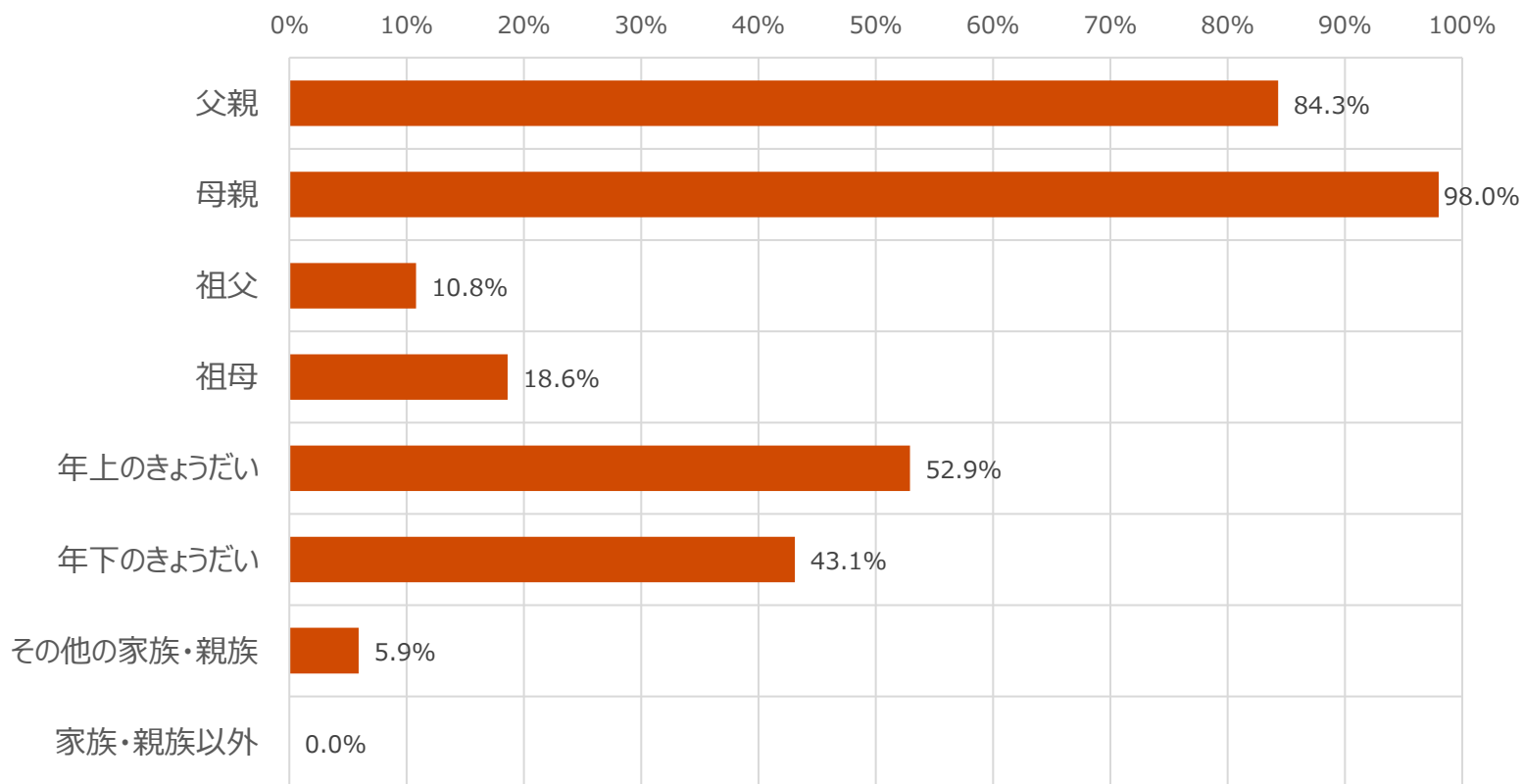
2. 回答者の続柄

Q2. どなたが回答されていますか。お子さまから見た続柄をお答えください。（n=102）



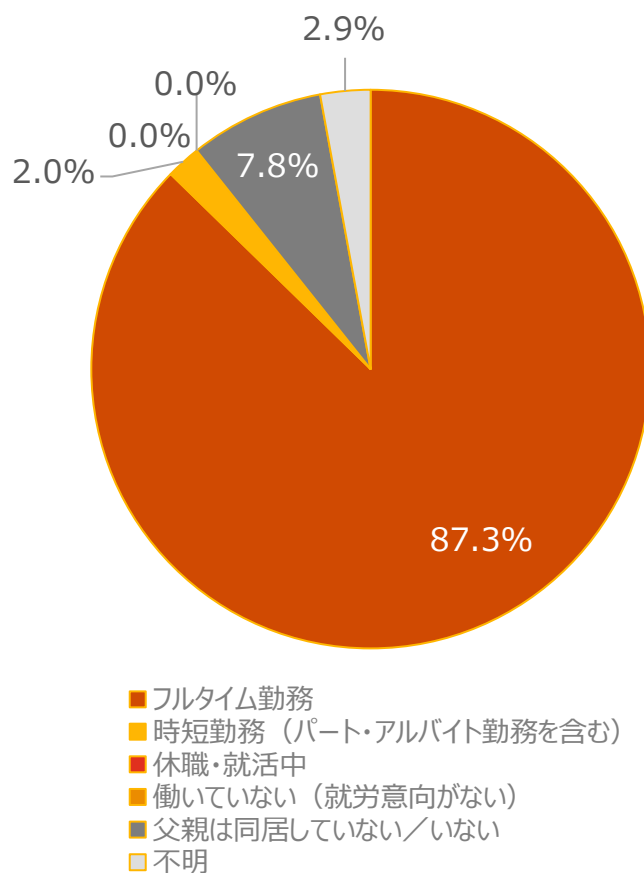
3. 同居している家族

Q3.現在、お子さまと同居している方を、あなたも含めてお答えください。(n=102)



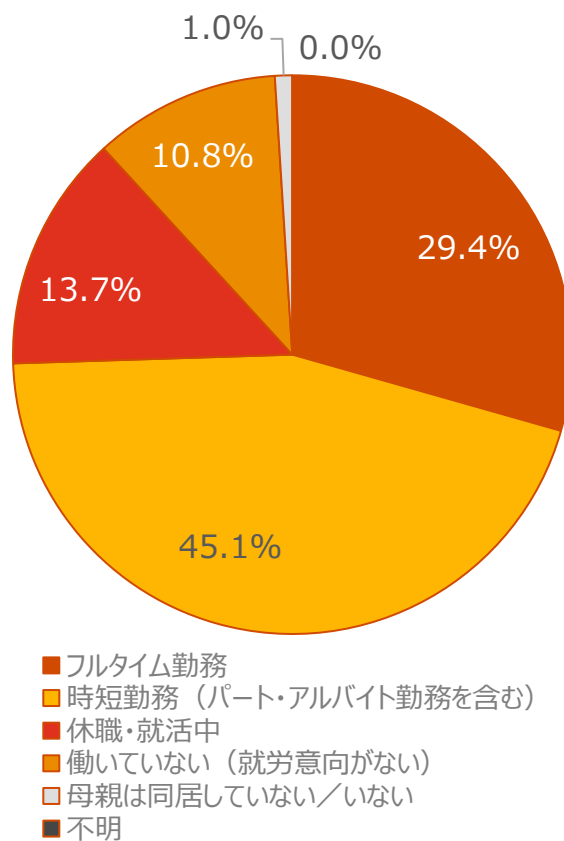
4. 同居している父親の就労状況

Q4. お子さまと同居しているご両親の就労状況をお答えください。1.父親（n=102）



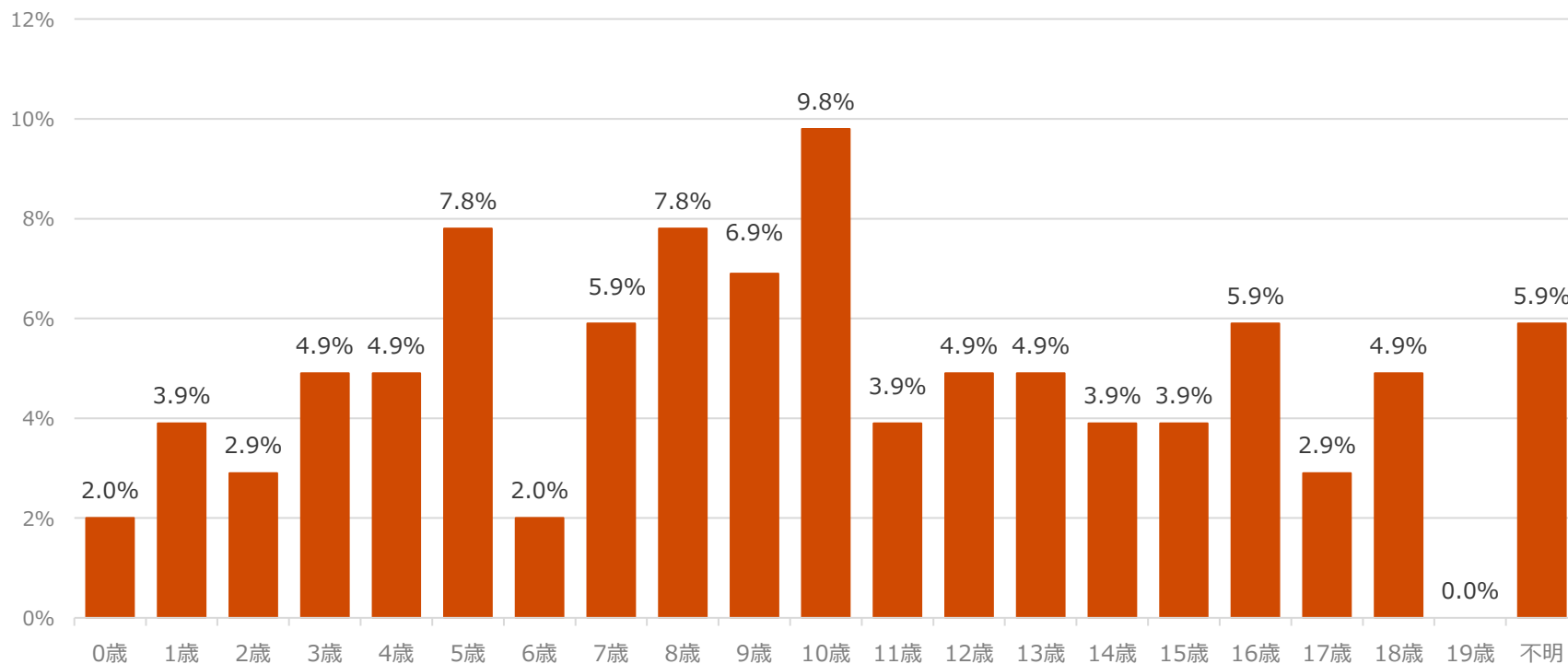
5. 同居している母親の就労状況

Q4. お子さまと同居しているご両親の就労状況をお答えください。2.母親（n=102）



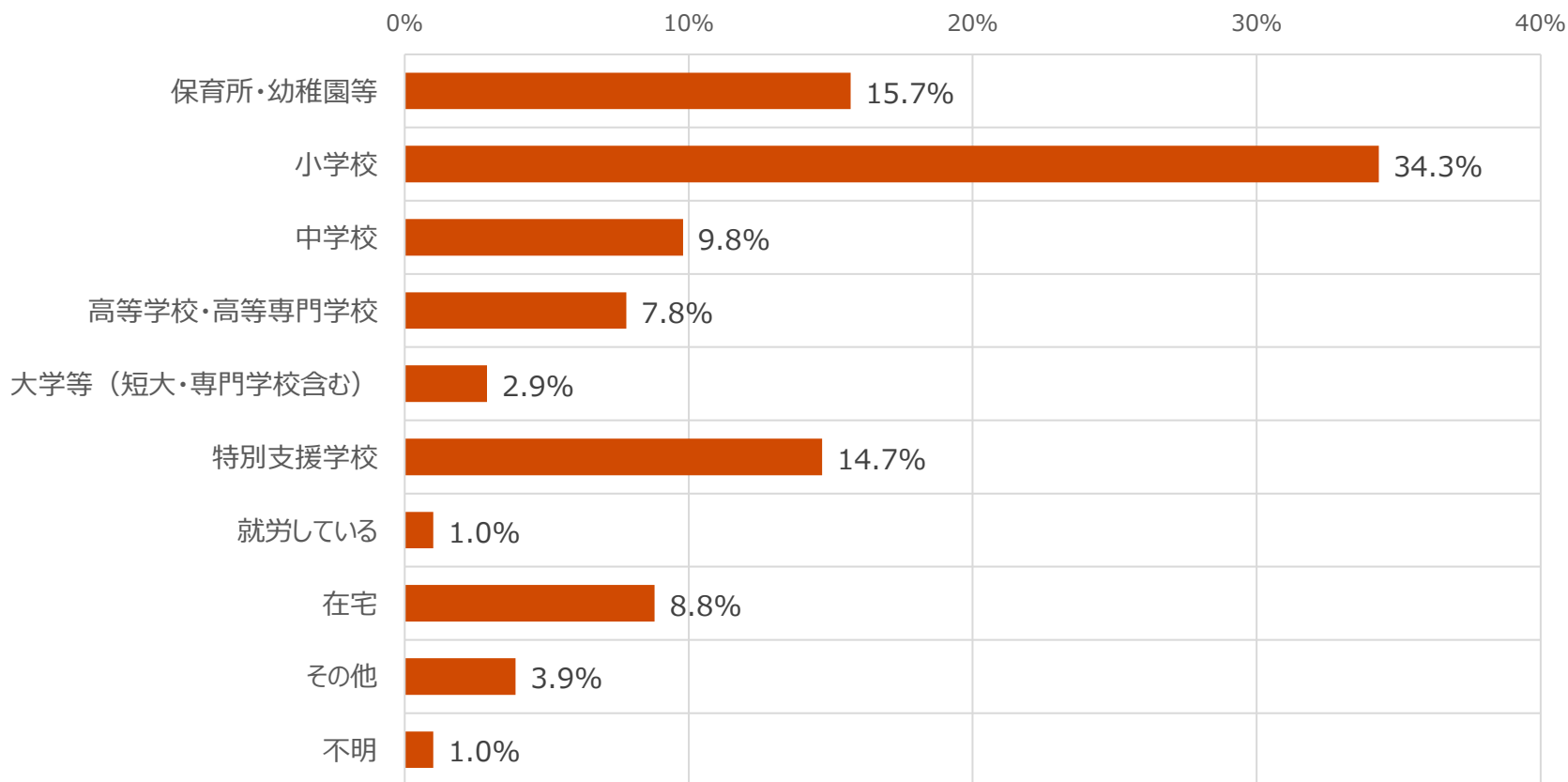
6. こどもの年齢

Q5. お子さまの年齢をお答えください。(n=102)



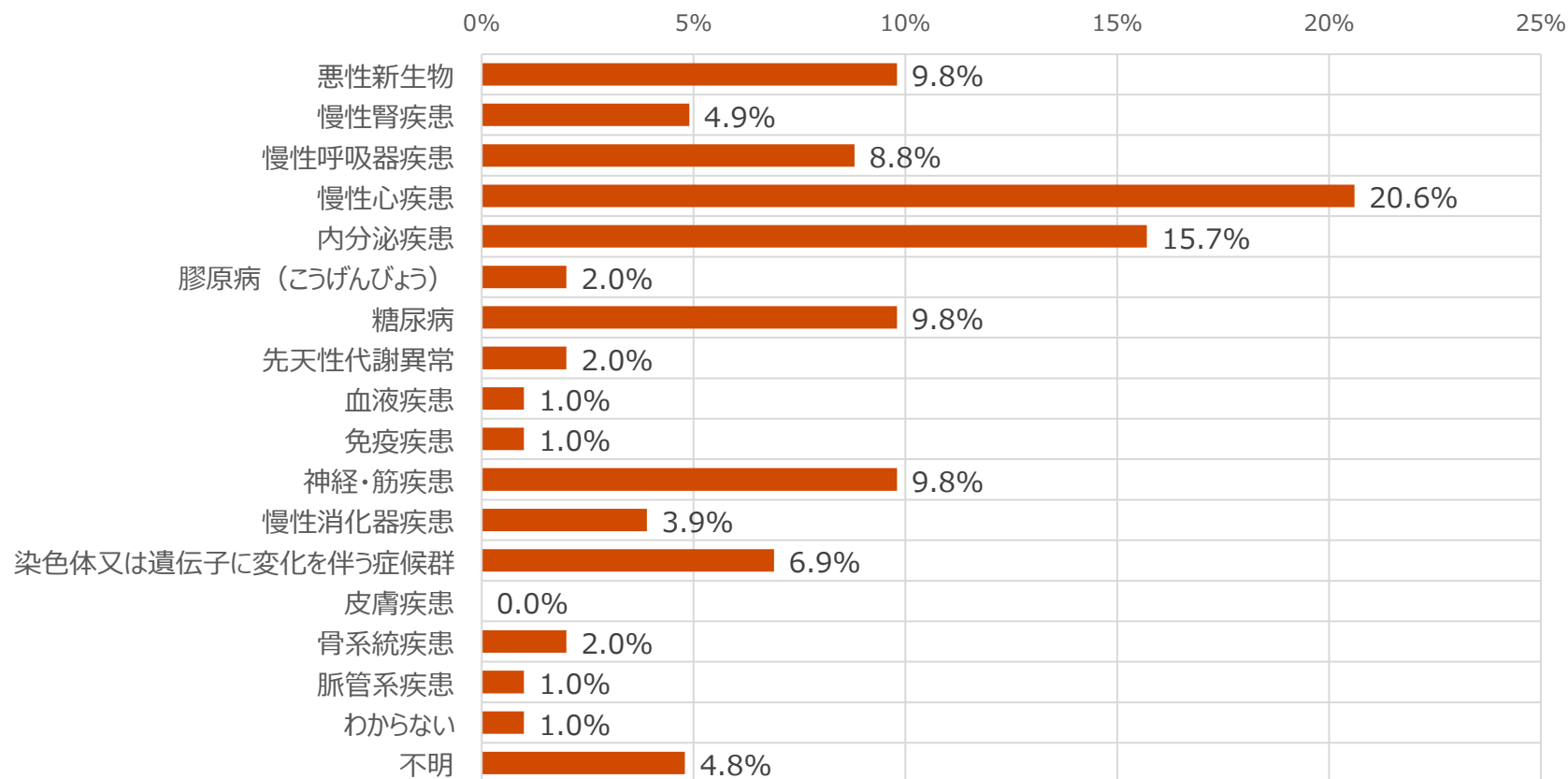
7. こどもの在籍している保育・教育機関等

Q6. お子さまが現在在籍している保育・教育施設等をお答えください。（n=102）



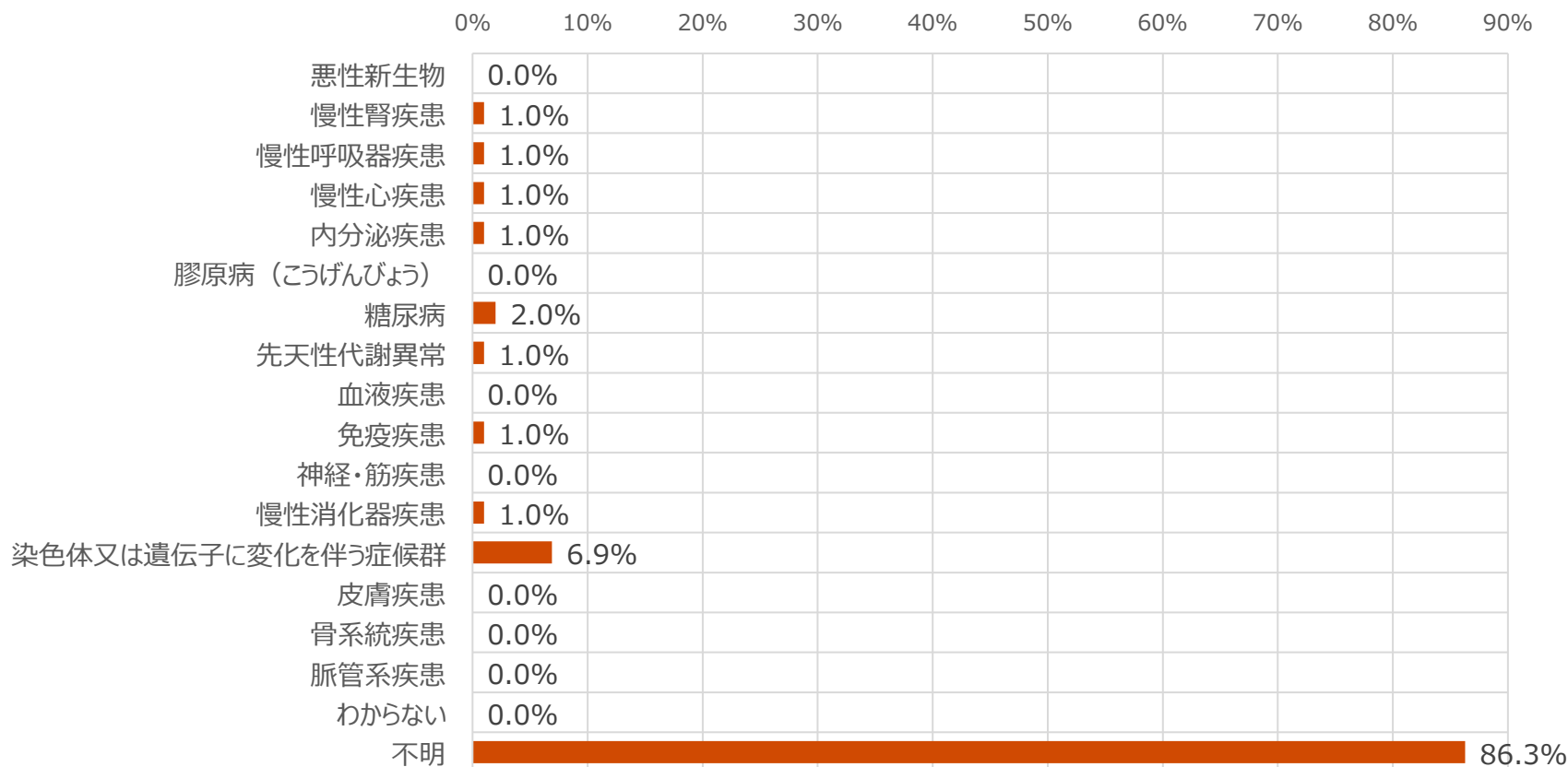
8. こどもの小児慢性特定疾病の疾患群名（主病）

Q7. お子さまが患っている小児慢性特定疾病の主疾患群名をお答えください。（n=102）



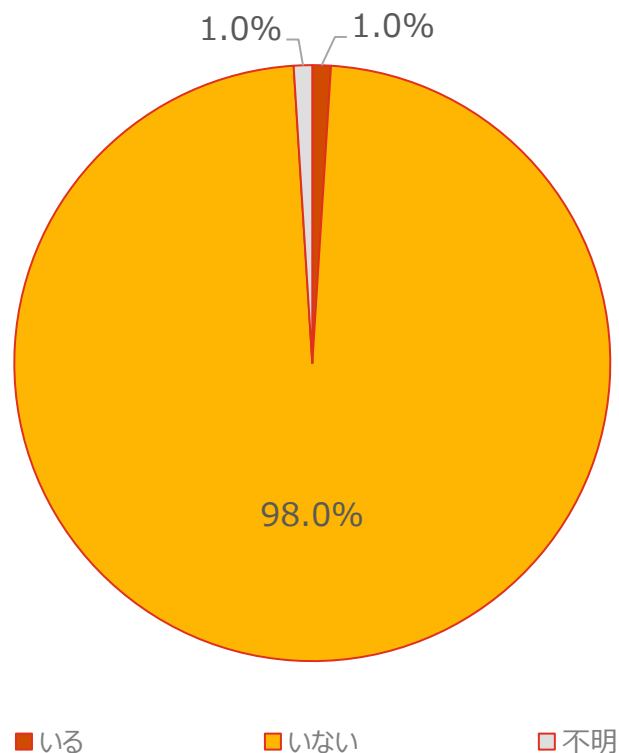
9. こどもの小児慢性特定疾病の疾患群名（主病以外）

Q8. 主病以外に当てはまる疾患群があればお答えください。（n=102）



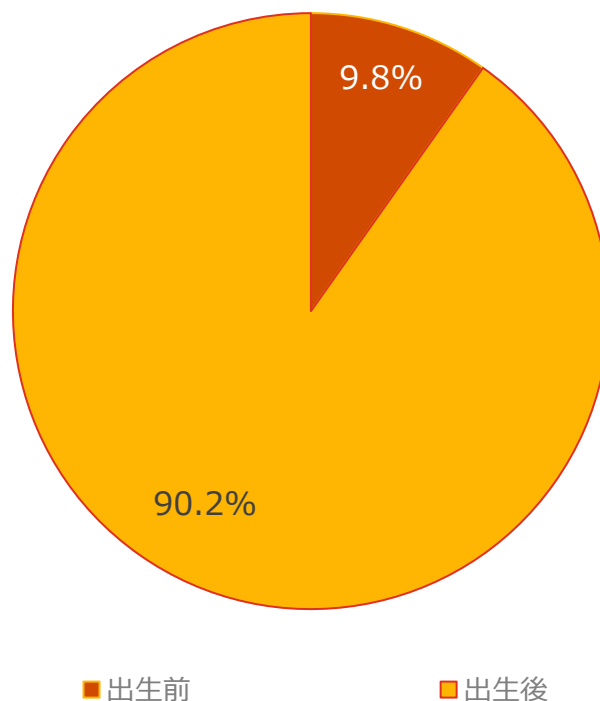
10. 小児慢性特定疾病の受給者証を持っている同居きょうだい

Q9.同居しているごきょうだいの中に、宛名の お子さま以外で、
小児慢性特定疾病の受給者証をお持ちの方はいますか。(n=102)



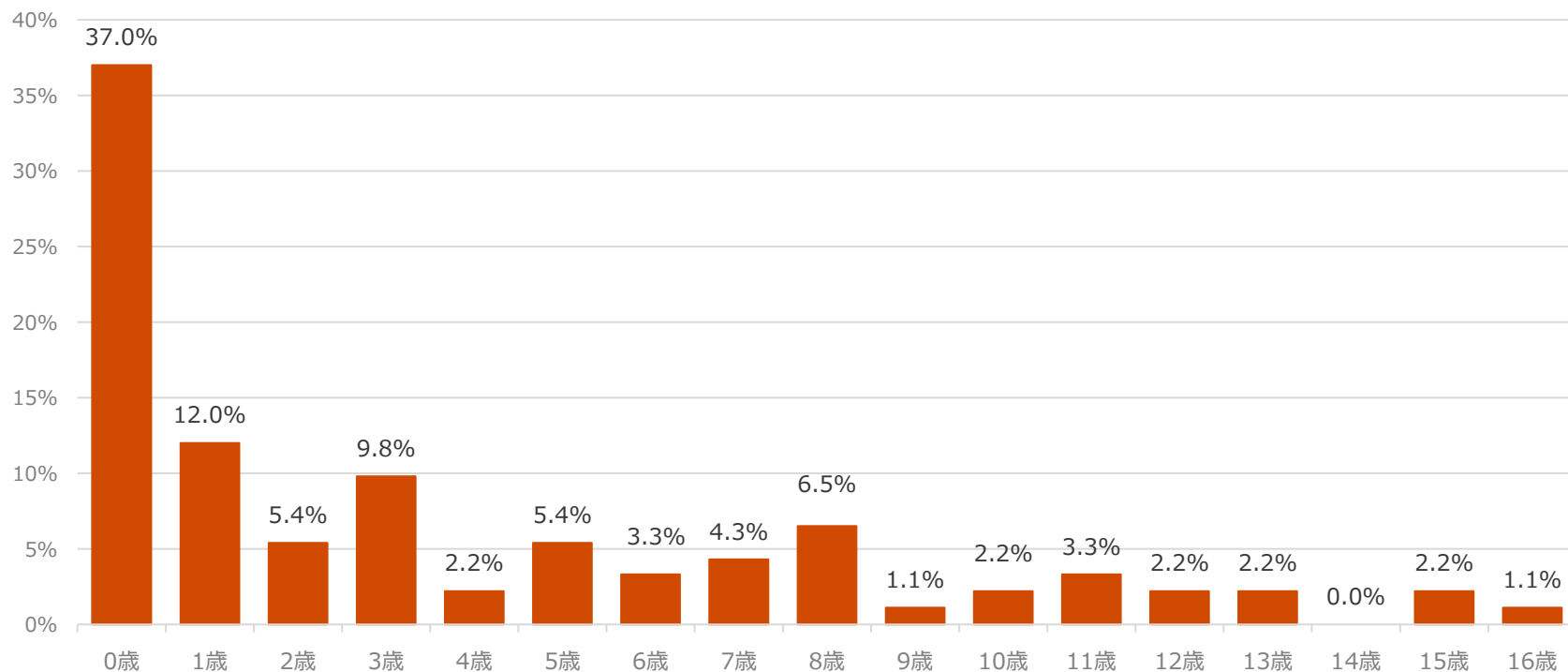
11. こどもが主病の診断を受けた時期

Q9. お子さまが主病の診断を受けたのはいつですか。(n=102)



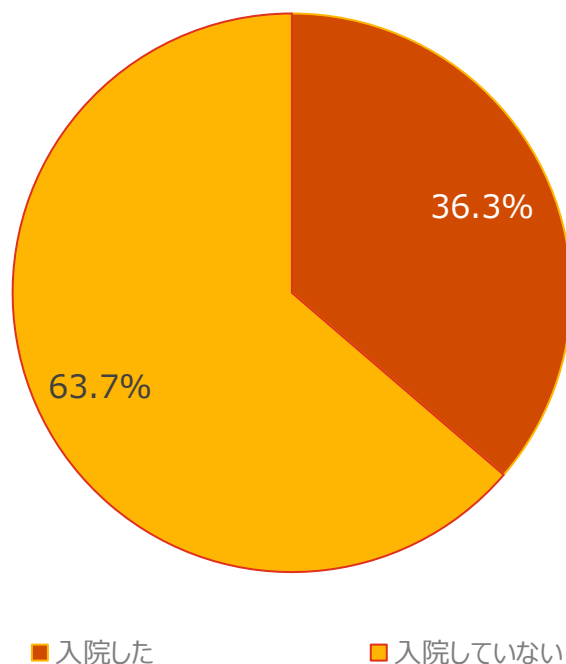
12. 主病の診断を受けた時期

Q10.「2. 出生後」を選択した場合、その時のお子さまの年齢をお答えください。(n=92)



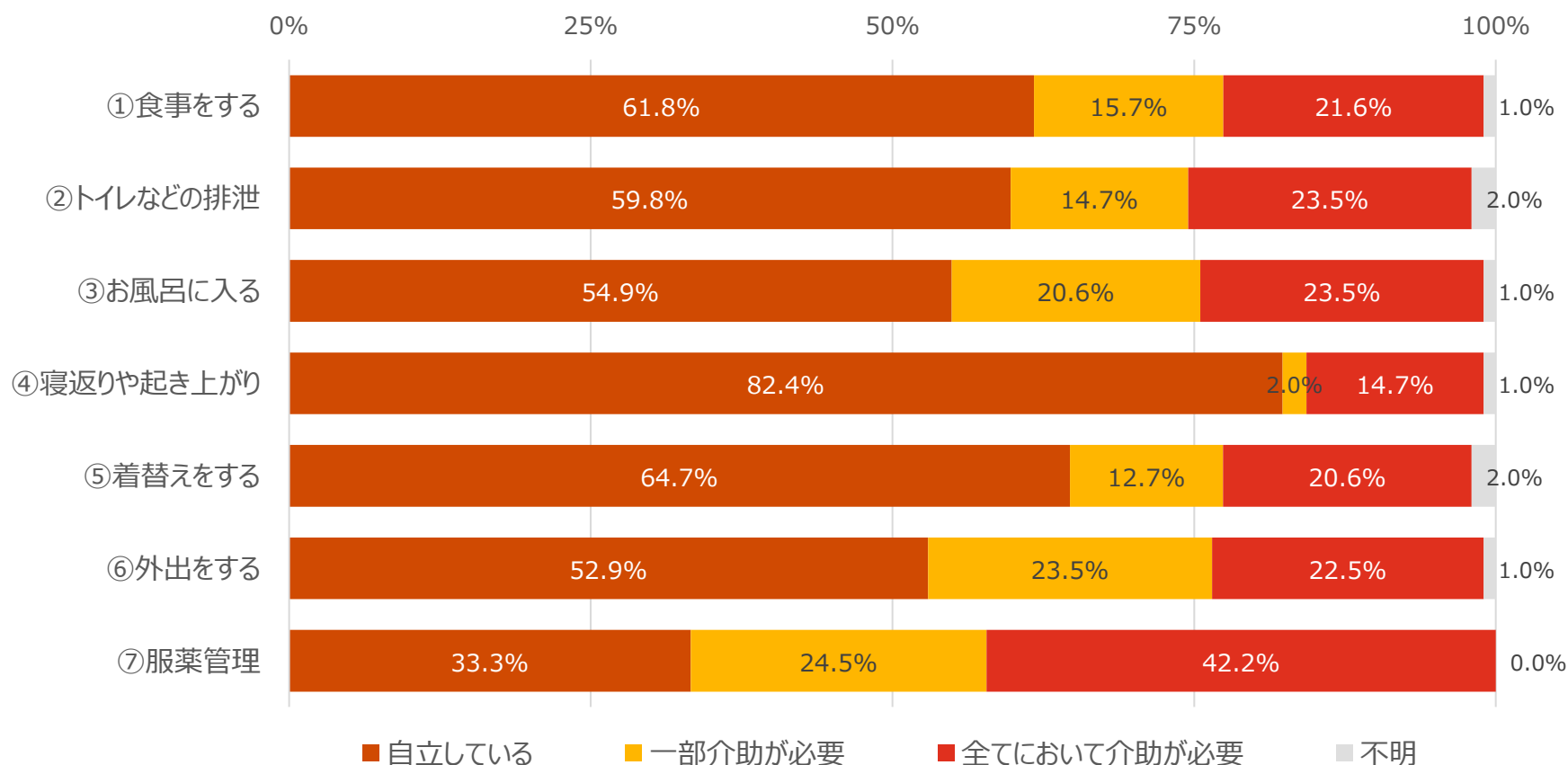
13. 1年以内の小児慢性特定疾病を理由とした入院

Q11. お子さまは、直近1年間に小児慢性特定疾病を理由として、病院への入院をしたことがありますか。(n=102)



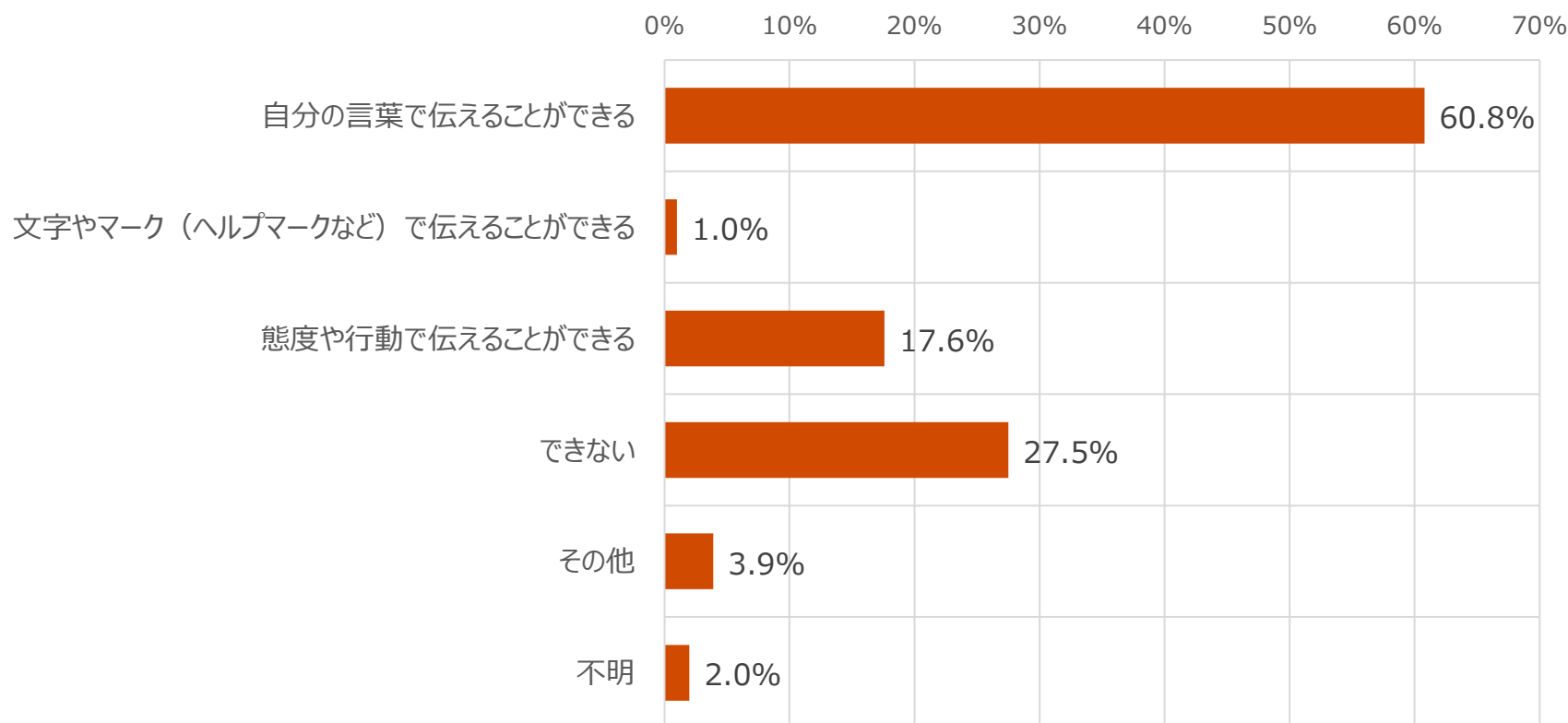
14. こどもの生活の自立度

Q14. あなたから見た、お子さまの生活の自立度をお答えください。(n=102)



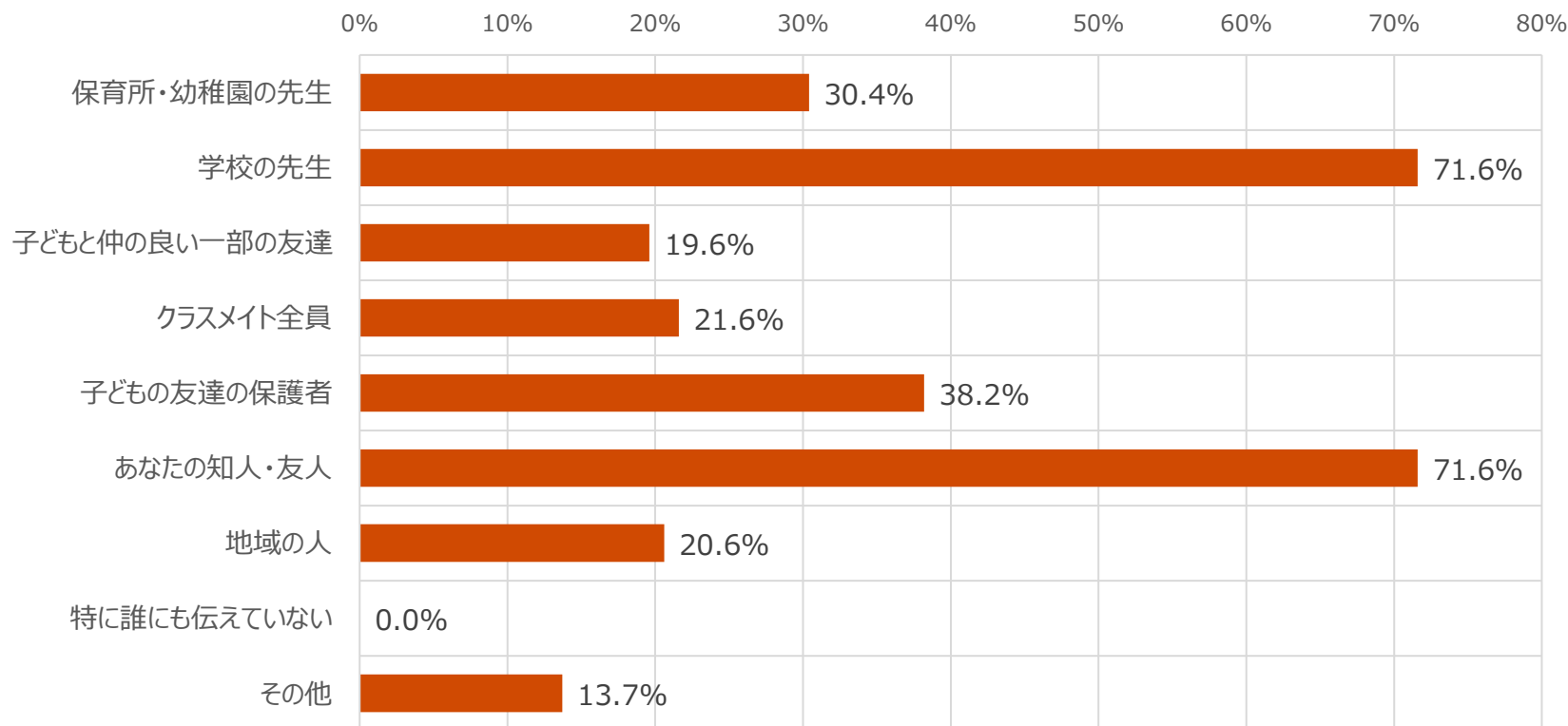
15. こどもが体調の変化を家族以外の人に伝えられるか

Q15. お子さまは自分の体調の変化を家族以外の人に伝えることができますか。（n=102）



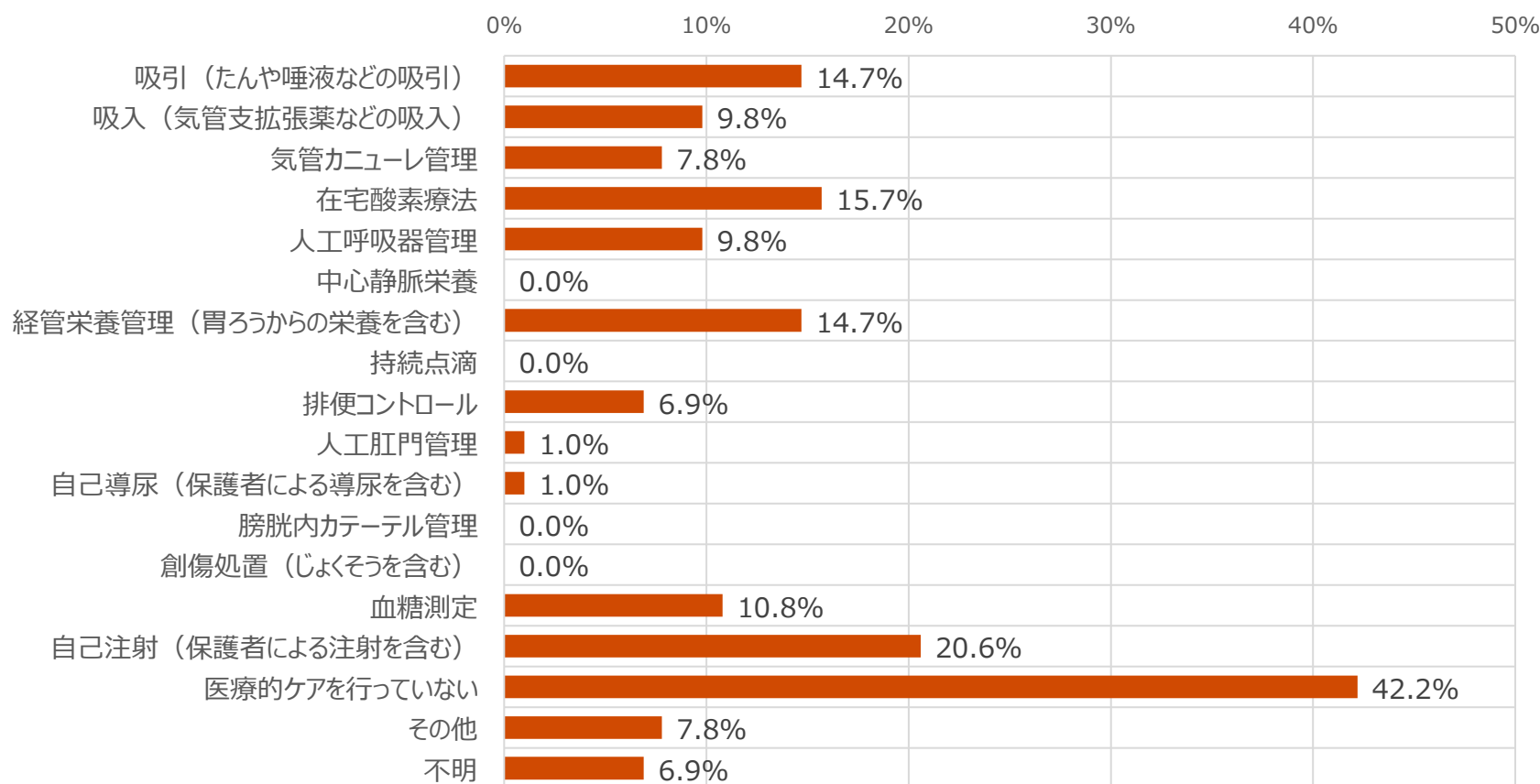
16. こどもの病気のことについて、家族以外で伝えている人

Q16. お子さまの病気のことについて、家族以外ではどなたに伝えていますか。（n=102）



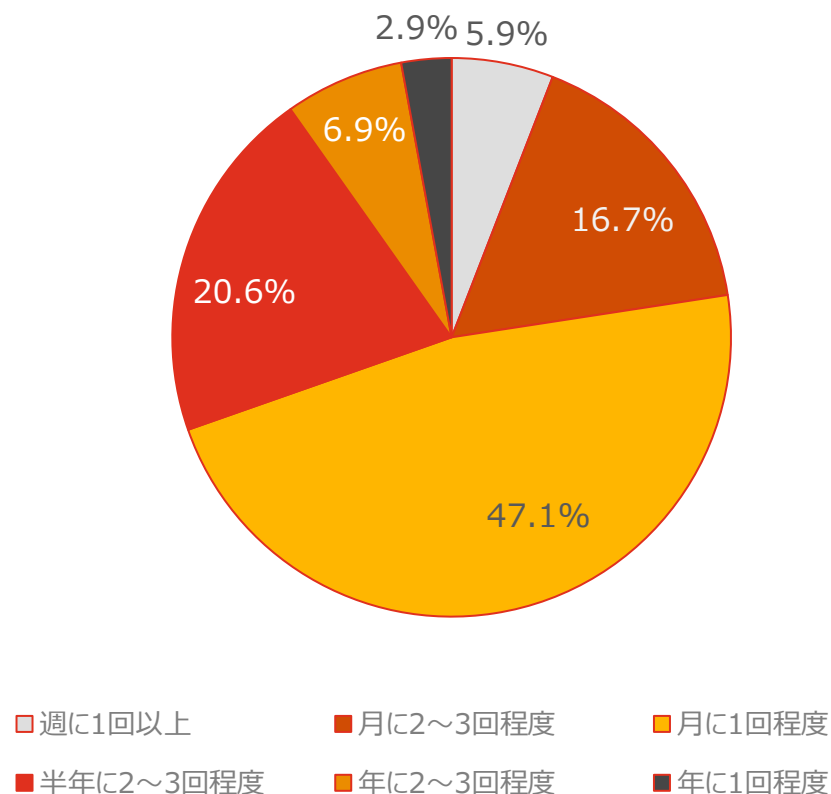
17. こどもが家庭で行って（受けて）いる医療的ケア

Q17. 次のうち、お子さまが家庭で行って（受けて）いる医療的ケアをお答えください。（n=102）



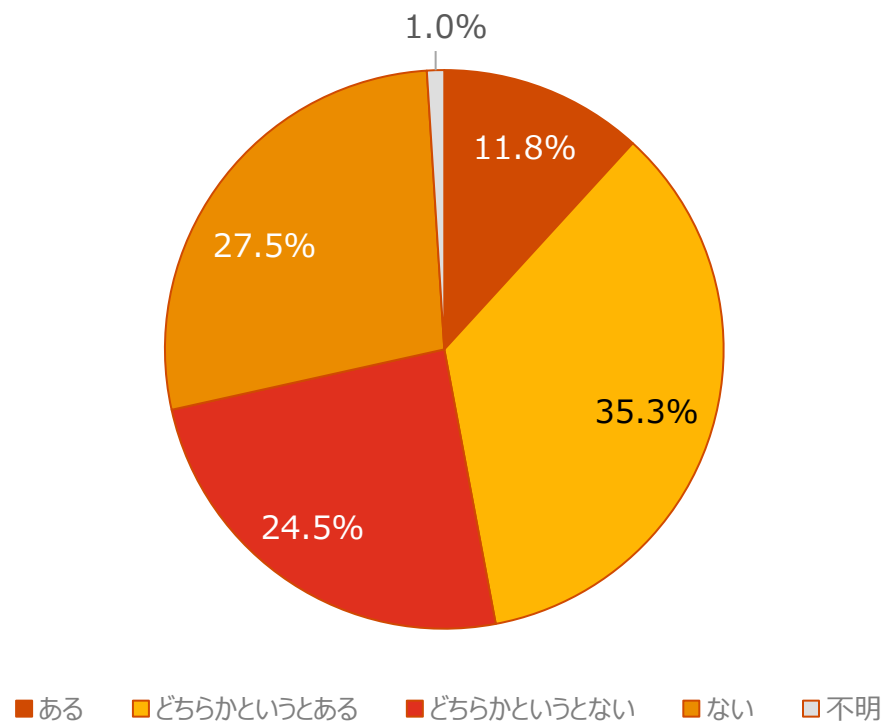
18. 直近 1 年間の病院への通院頻度

Q18. お子さまの直近 1 年間の病院への通院頻度をお答えください。(n=102)



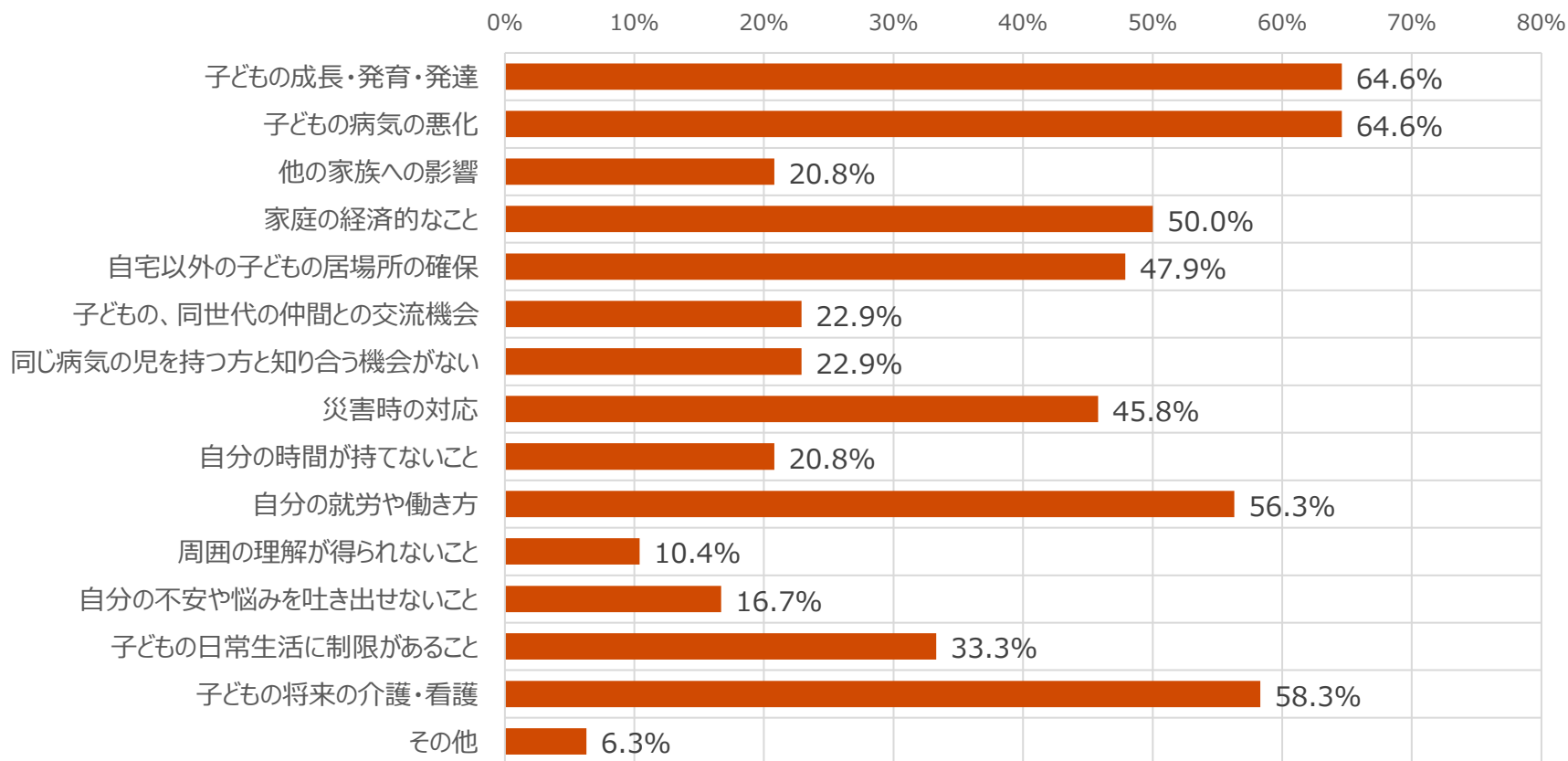
19. 在宅での生活を支えることへの不安や悩みの有無

Q19. あなたはお子さまの在宅での生活を支えることに不安や悩みを感じることはありますか。（n=102）



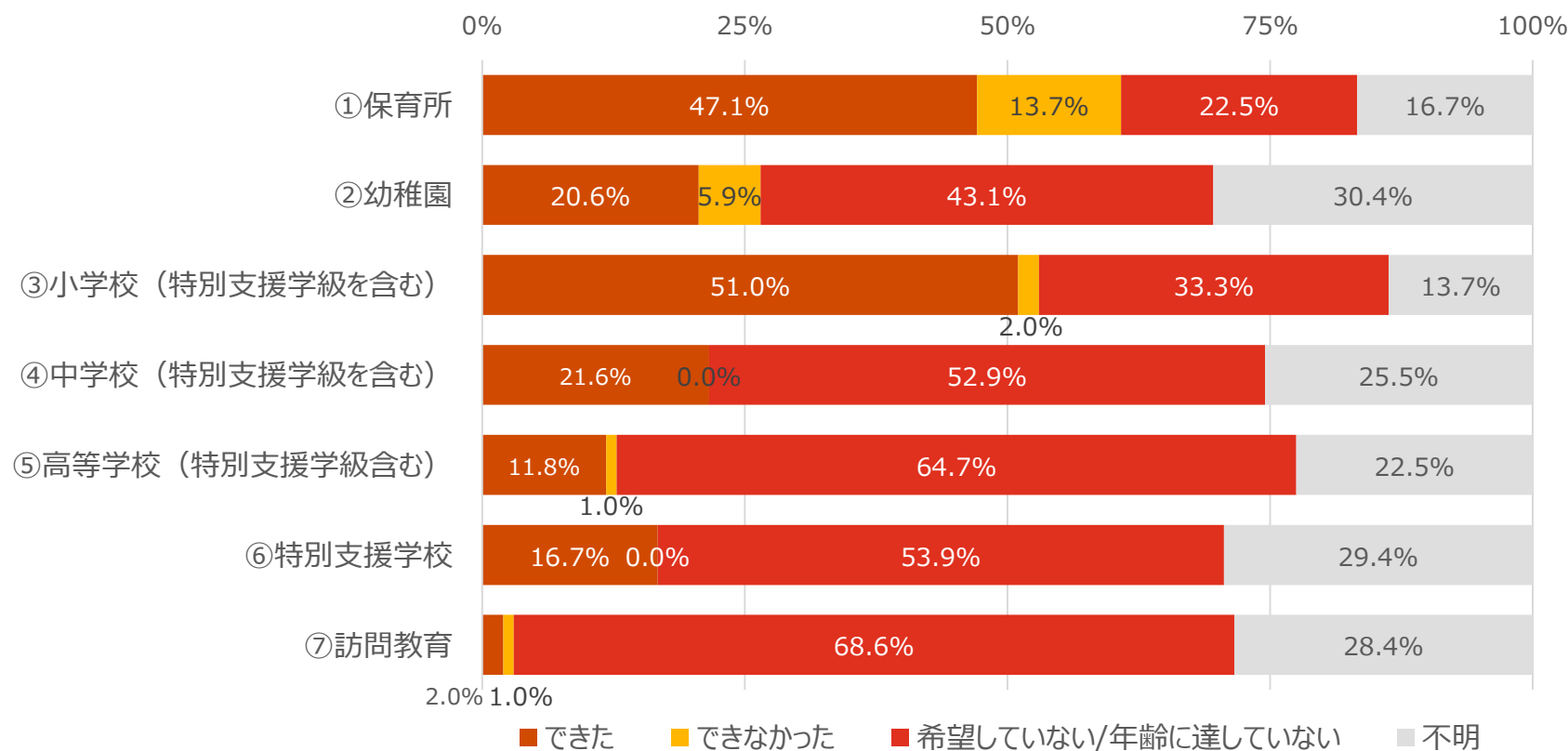
20. 在宅での生活を支えることの不安や悩み

Q20. あなたの不安や悩みについて当てはまることをお答えください。（n=48）



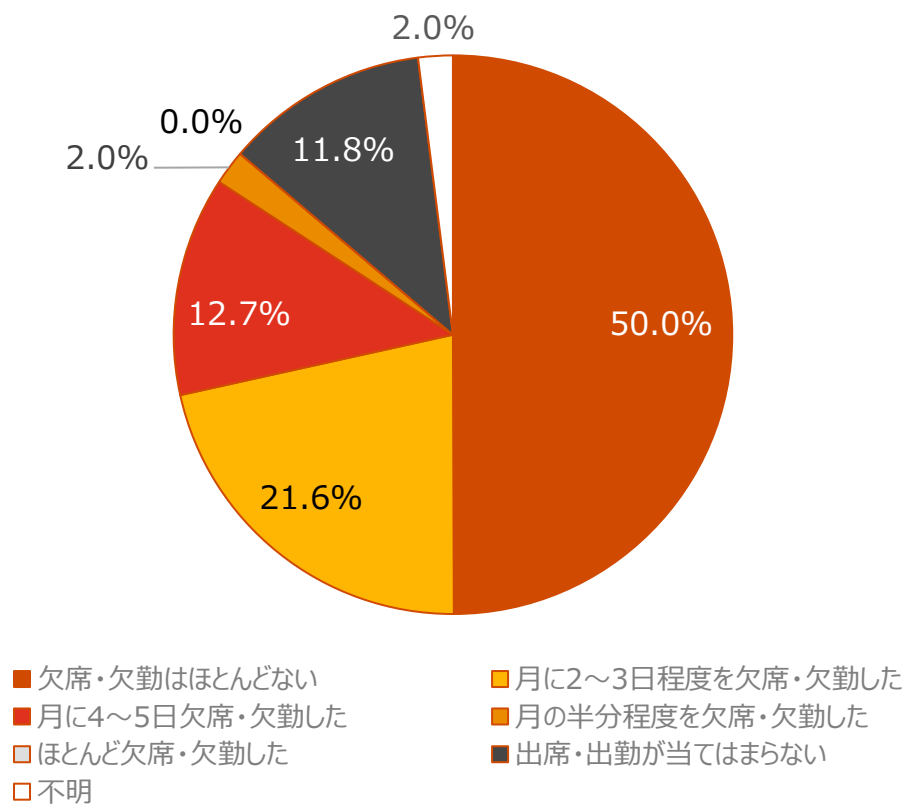
21. 希望通りの入学・入園ができなかった経験

Q21. お子さまはこれまでに小児慢性特定疾病に関連する必要な相談等を経て、あなたやお子さまが希望する学校や保育所等の施設への入学・入園ができましたか。（n=102）



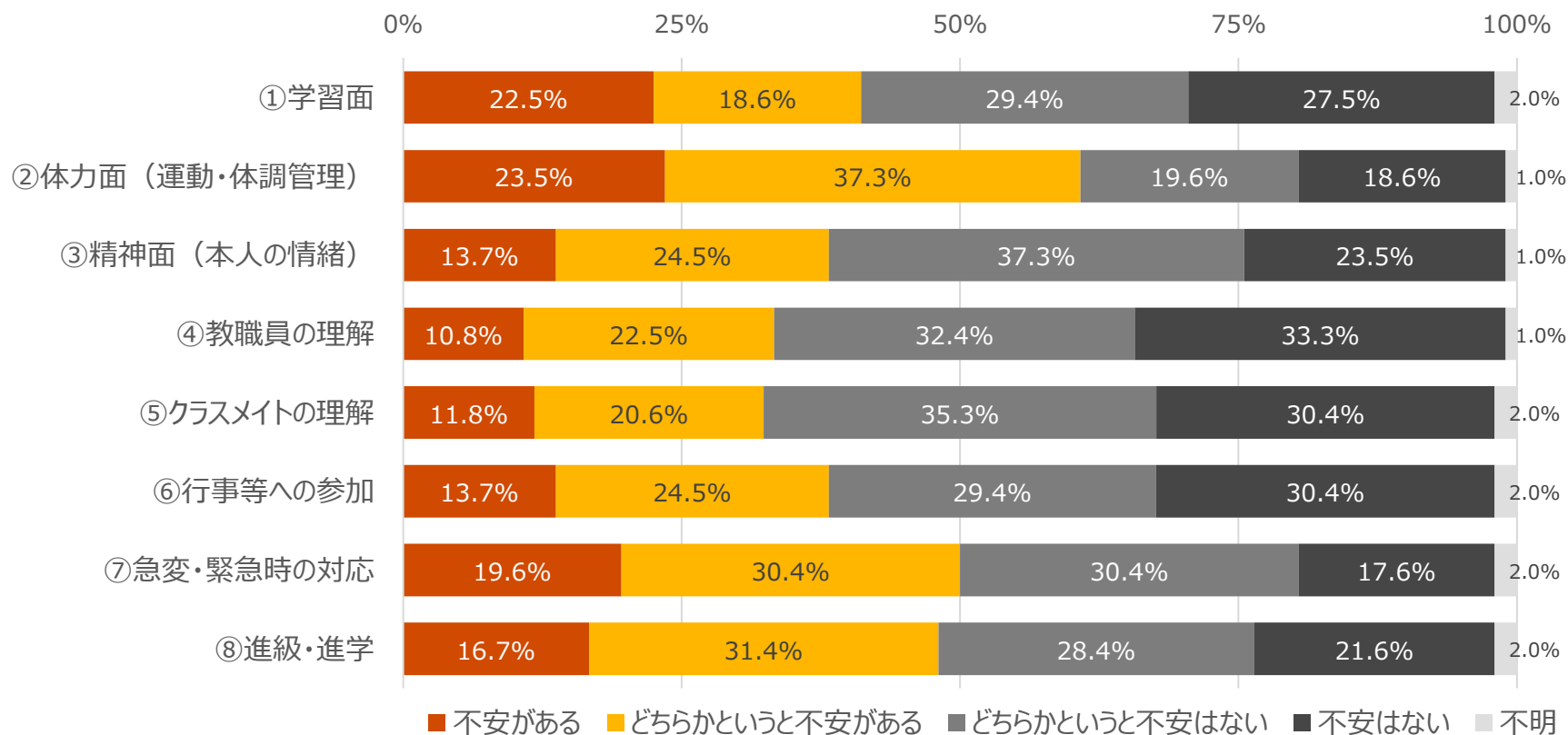
22. 欠席・欠勤状況

Q22. お子さまの、この1年間の欠席・欠勤状況をお答えください。(n=102)



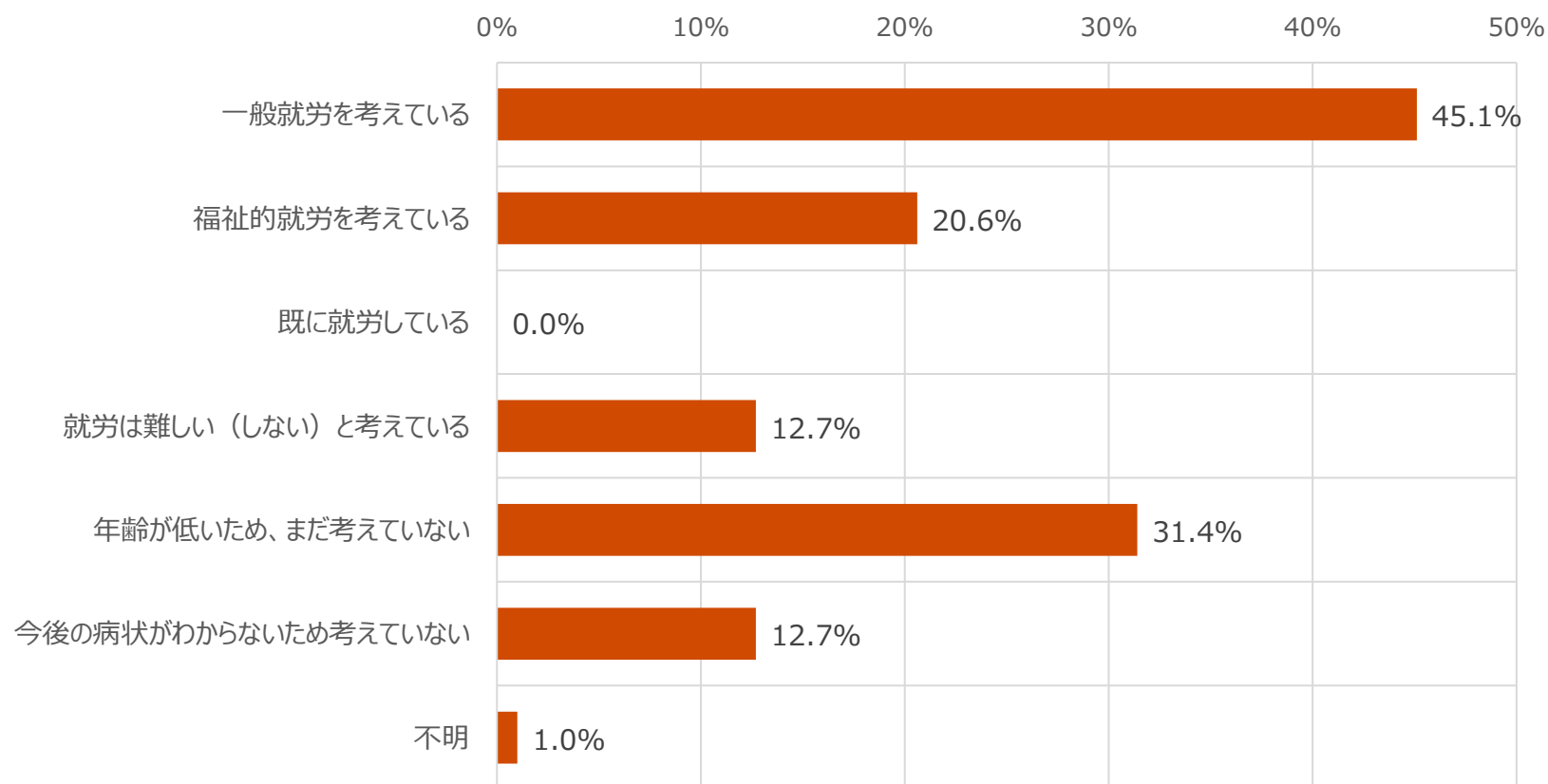
23. 学校や保育所等での生活についての不安

Q23. お子さまの学校や保育所等での活動について、あなたが不安に
思っていることをお答えください。（n=102）



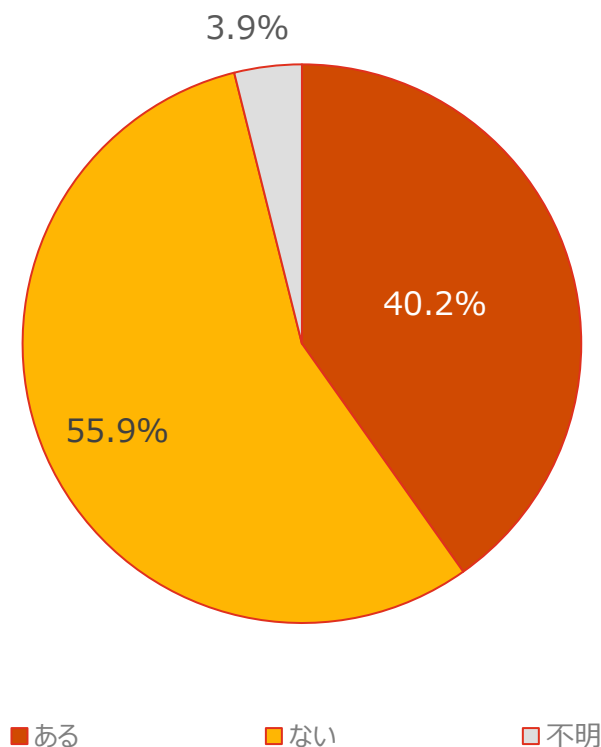
24. 就労についての考え

Q24. あなたはお子さまの就労について、どのように考えていますか。(n=102)



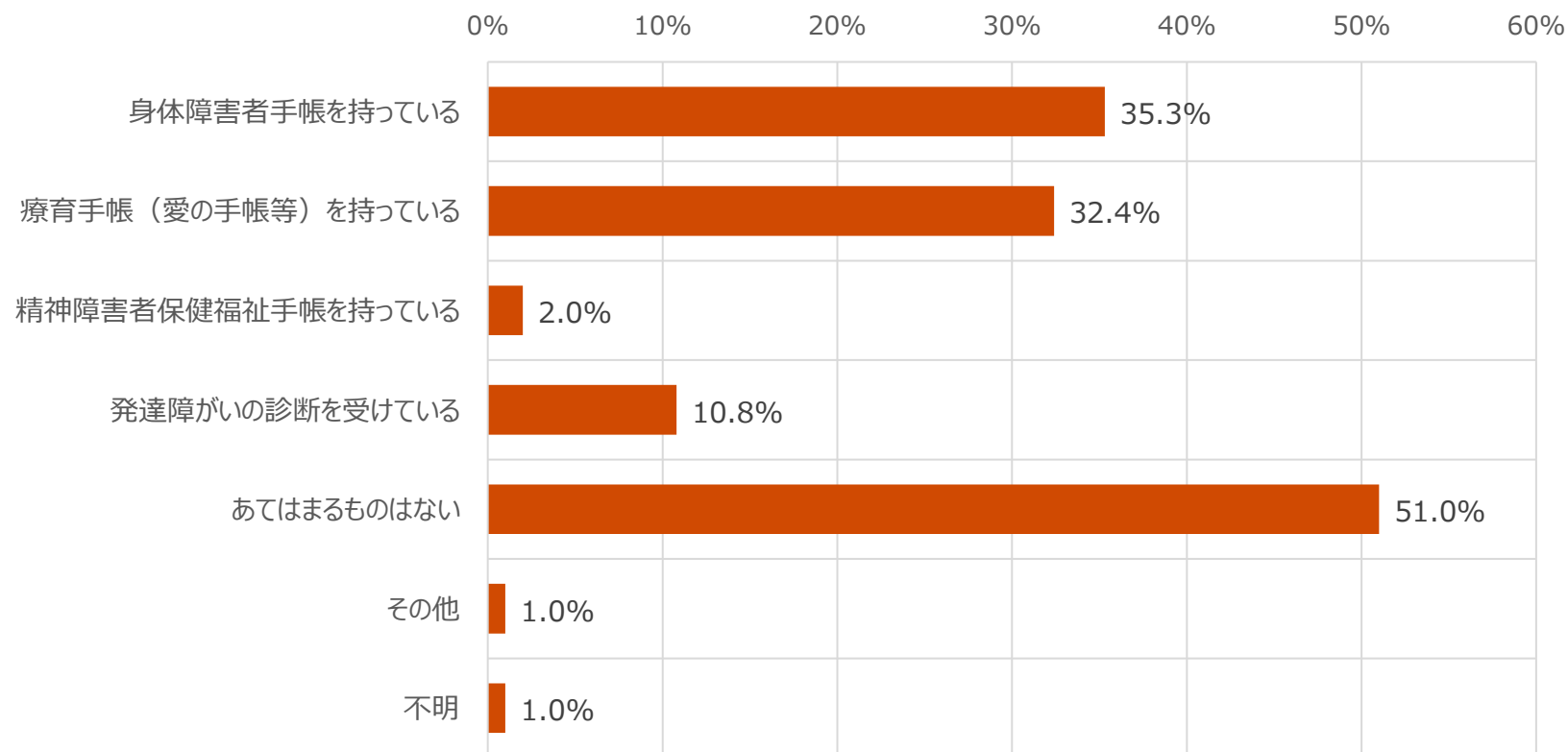
25. 就労についての不安や悩み

Q25. お子さまの就労について、不安や悩みはありますか。（n=102）



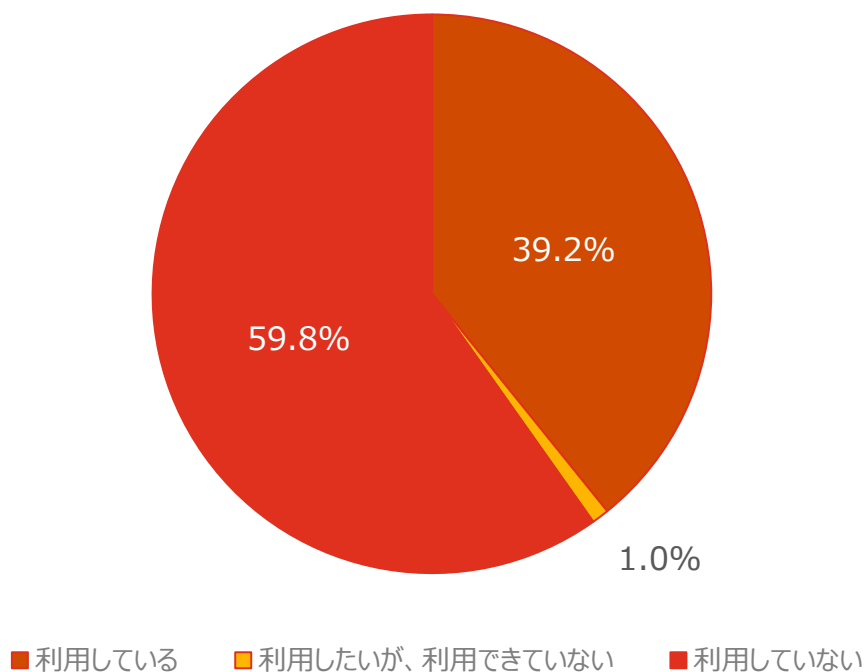
26. 心身の状態

Q27. お子さまの心身の状態について、あてはまるものをお答えください。(n=102)



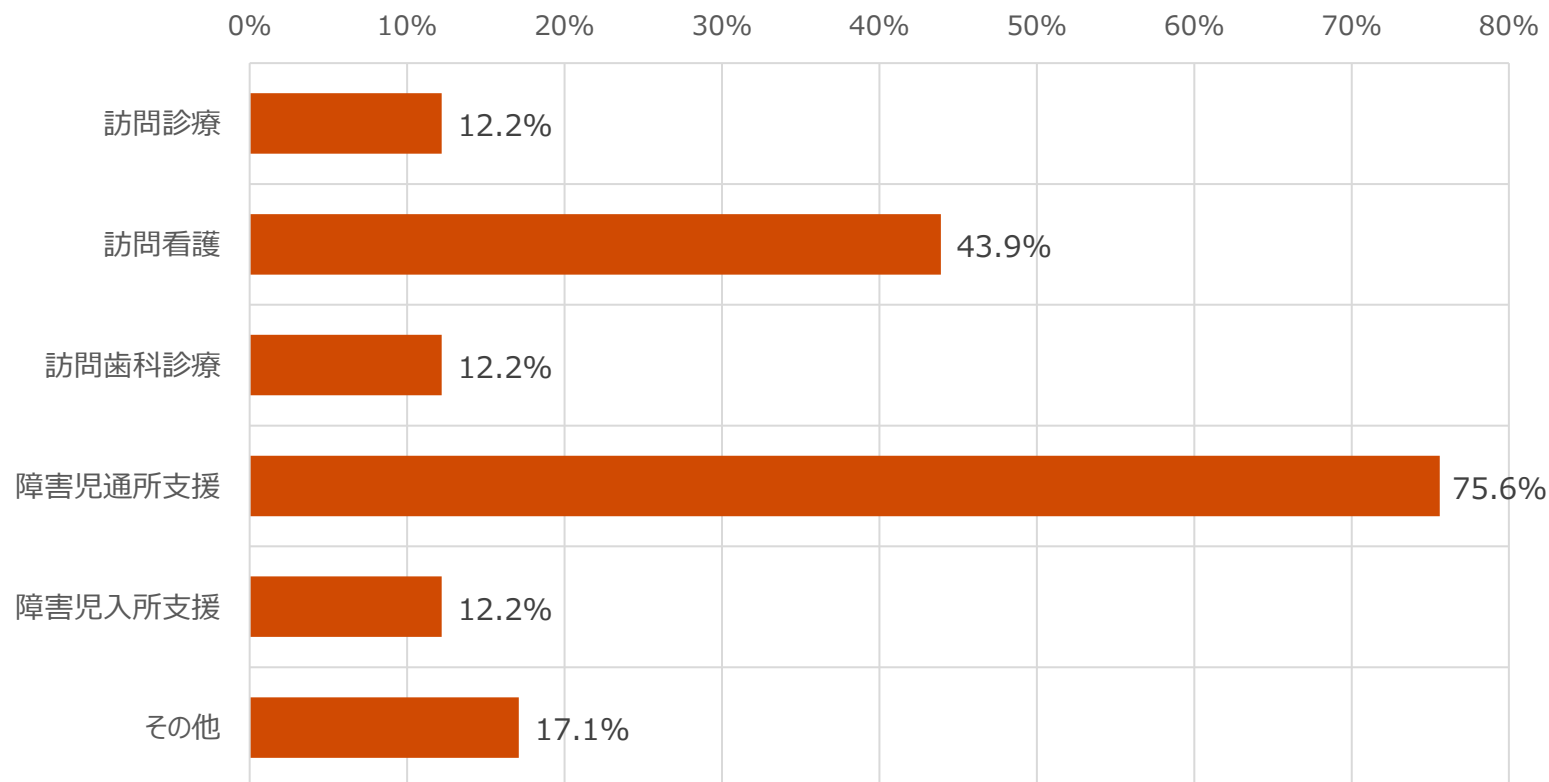
27. 医療や福祉に関するサービスの利用

Q28. お子さまは現在、通院や保育所・幼稚園に在籍する以外で、医療や福祉に関するサービスを利用していますか。（n=102）



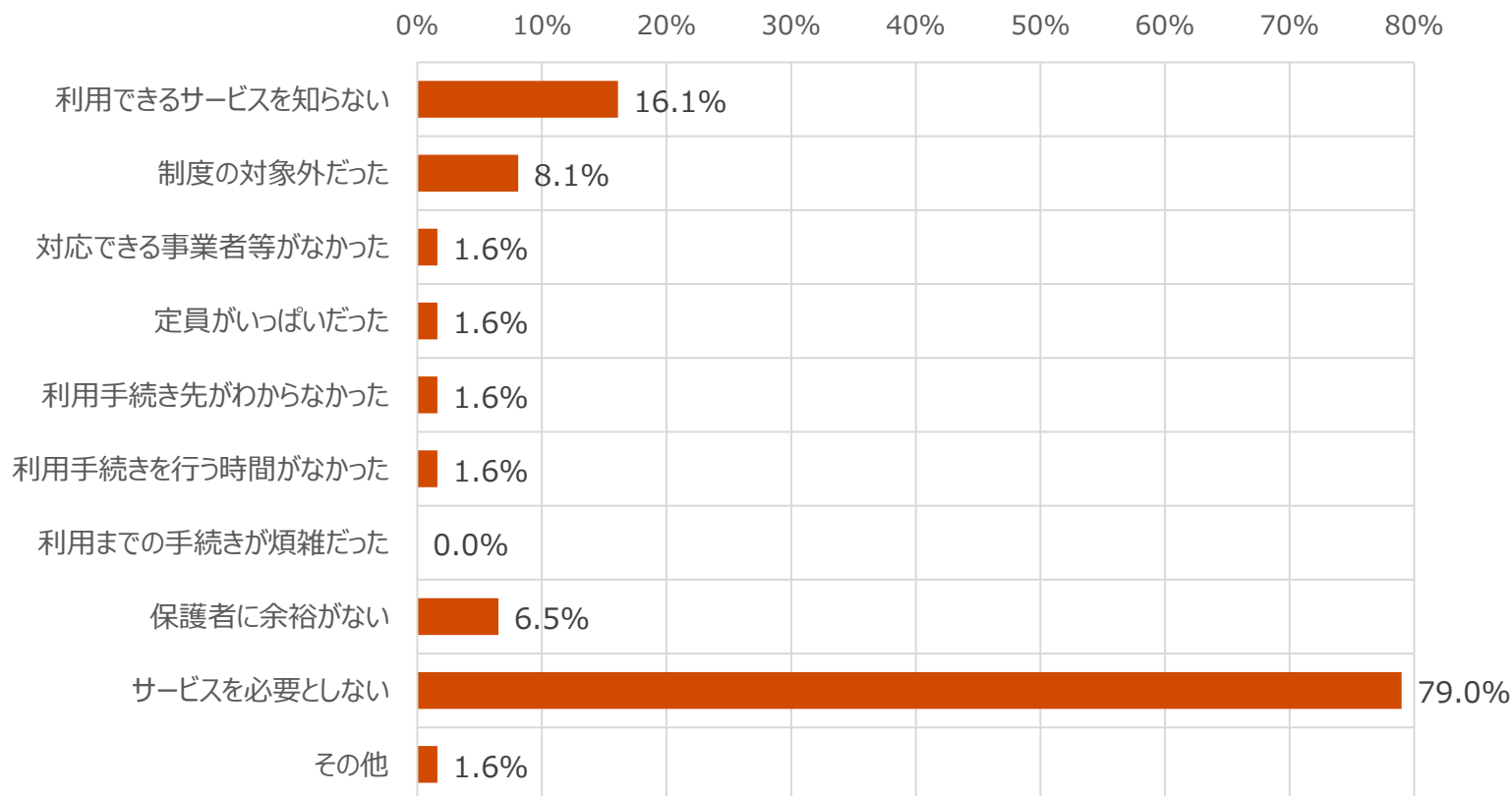
28. 利用している・利用を希望しているサービス

Q29. 利用している、もしくは利用を希望しているサービスをお答えください（n=41）



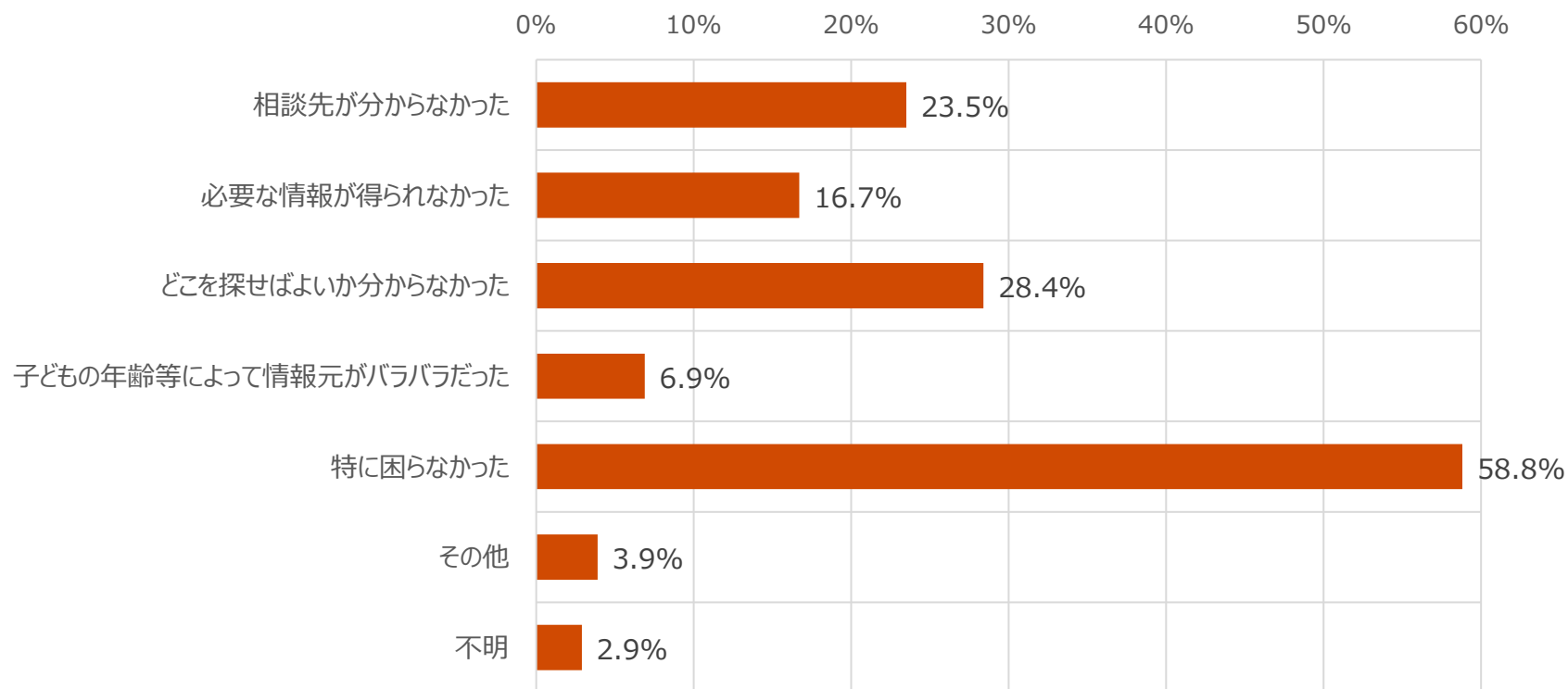
29. 利用していない（利用できていない）理由

Q30. 利用していない（利用できていない）理由をお答えください。（n=62）



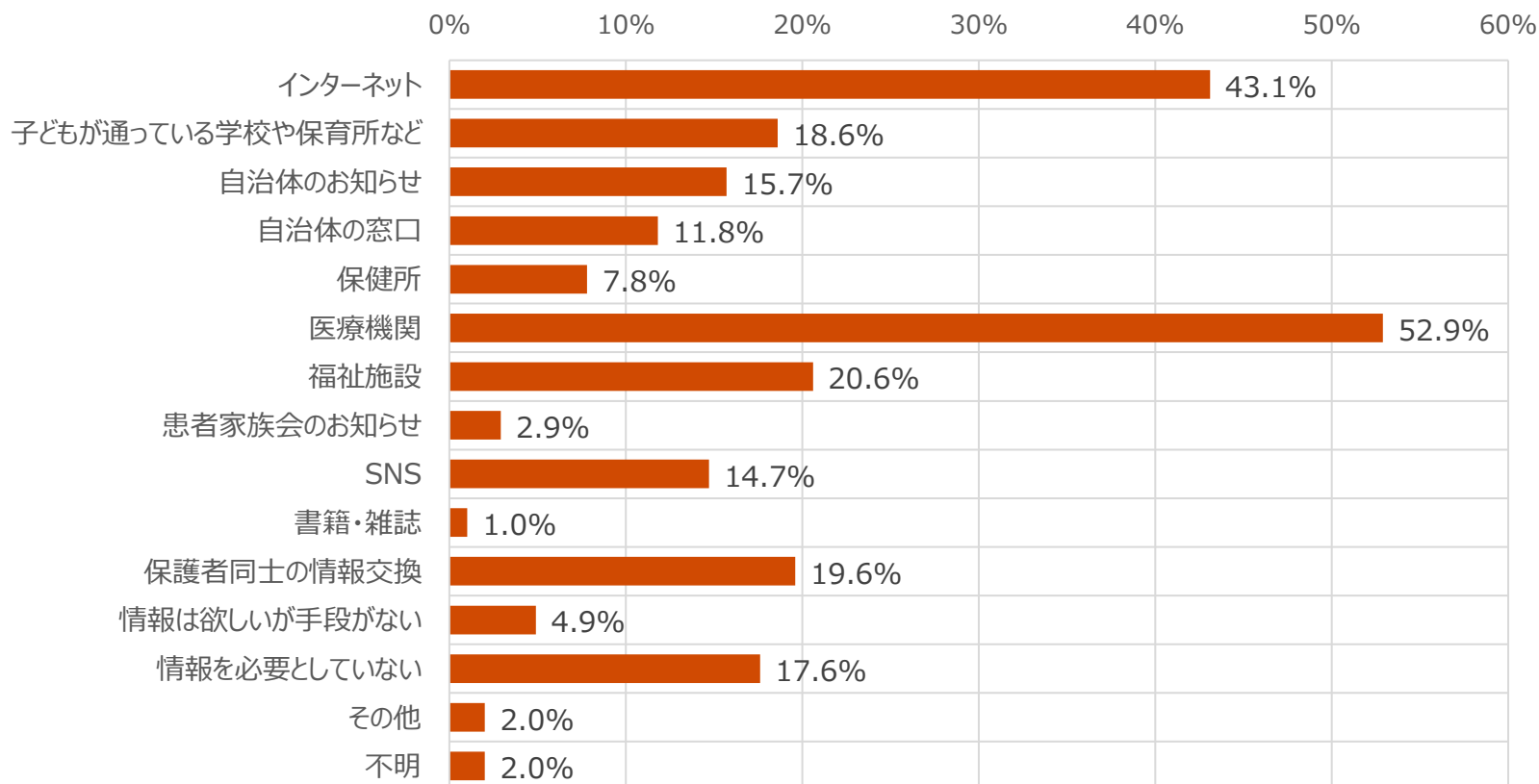
30. 医療・福祉サービス等の情報を入手する際に困ったこと

Q31. あなたは医療・福祉サービス等の情報を入手する際に困ったことはありましたか。(n=102)



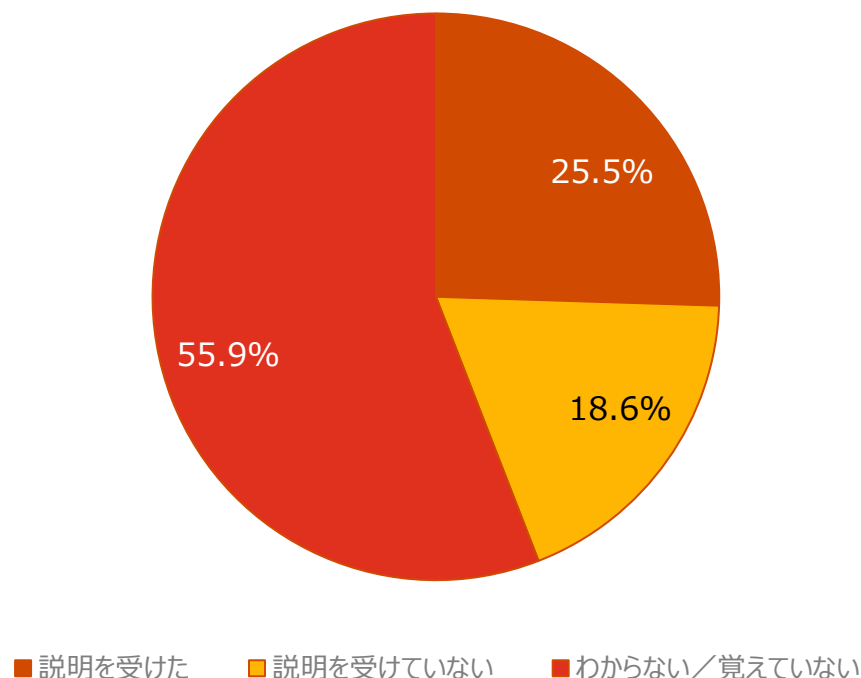
31. 医療・福祉サービス等の情報入手手段

Q32. あなたはお子さまに関する医療や福祉サービスの情報を
どのような手段で入手していますか。(n=102)



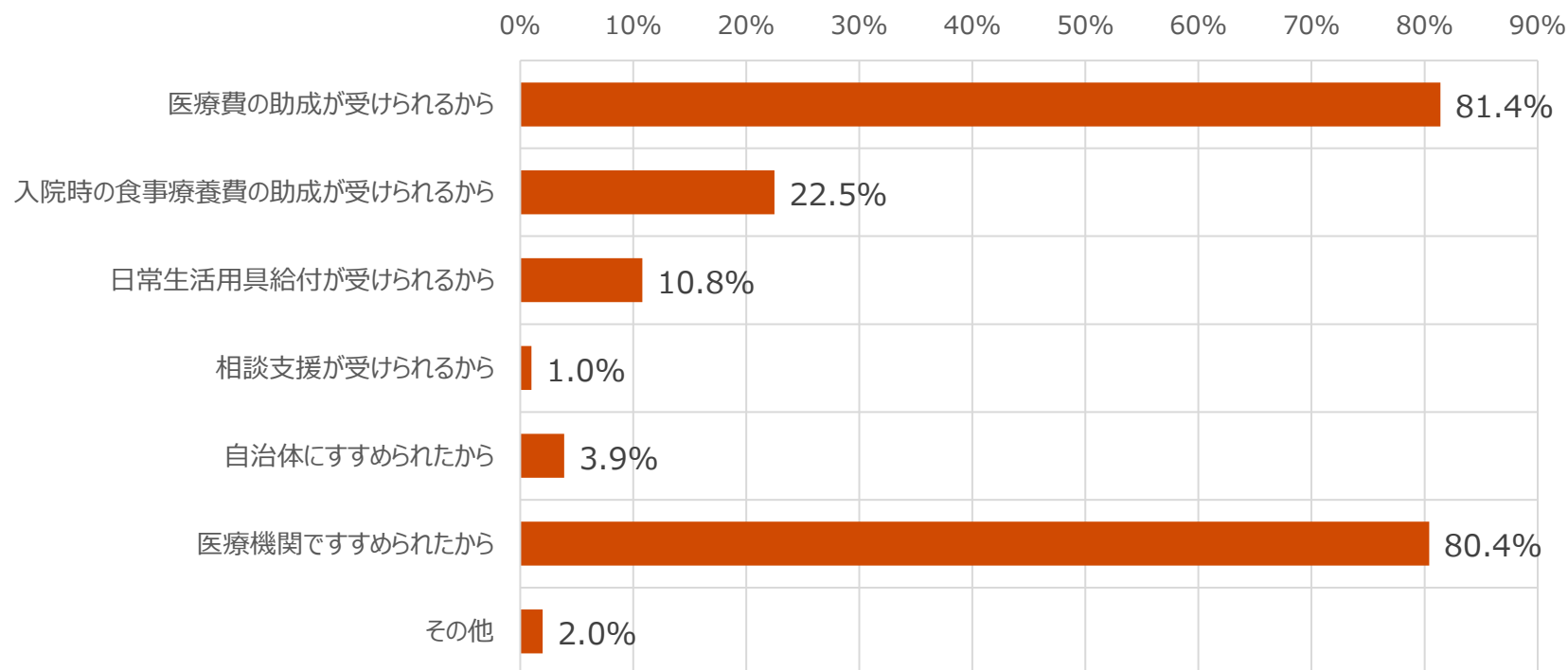
32. 自立支援事業の説明の有無

Q33.あなたは、小児慢性特定疾病医療費助成を申請する際に、自治体から自立支援事業に関する説明を受けましたか。(n=102)



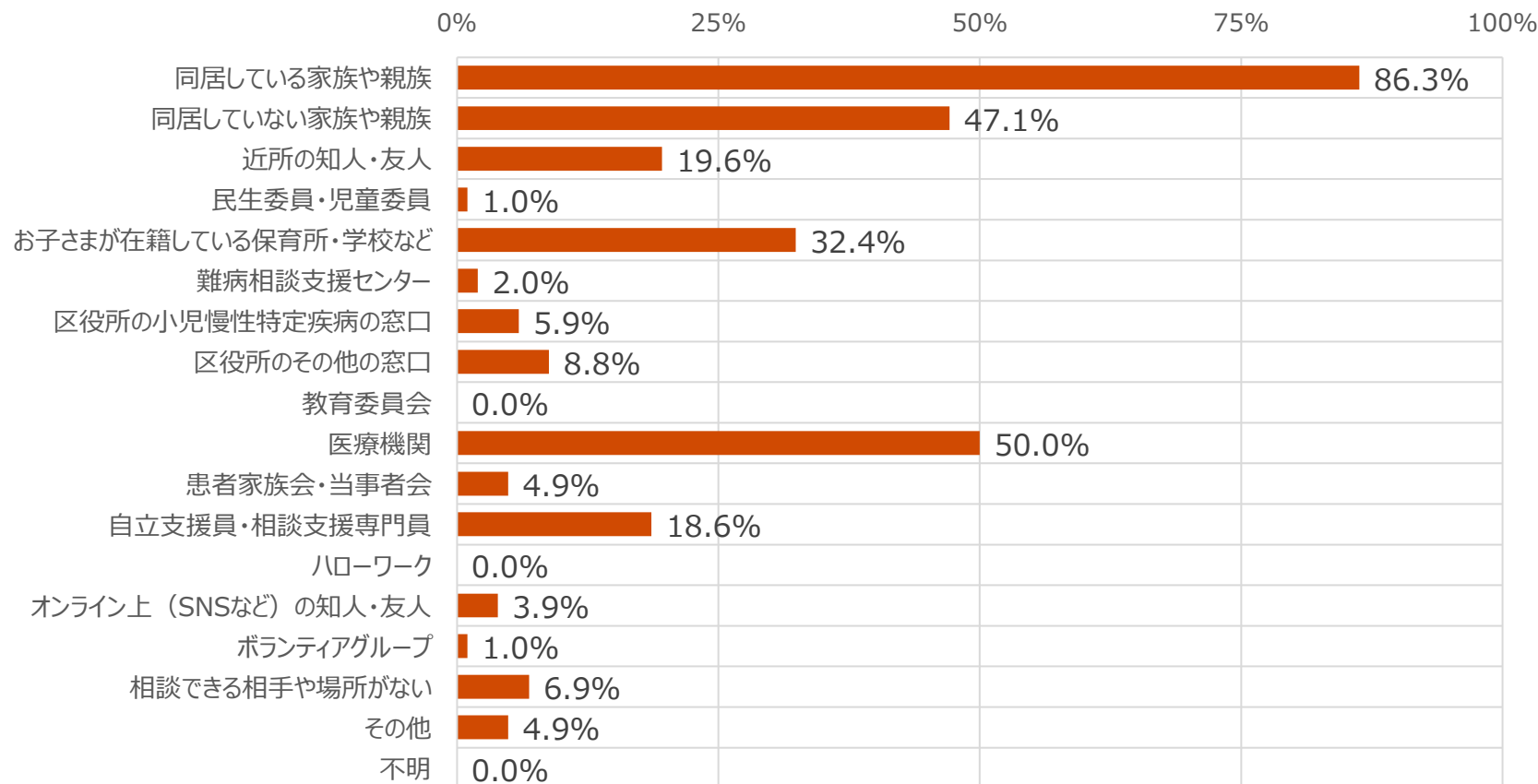
33. 小児慢性特定疾病医療費助成の申請理由

Q34.お子さまの小児慢性特定疾病医療費助成を申請した理由をお答えください。(n=102)



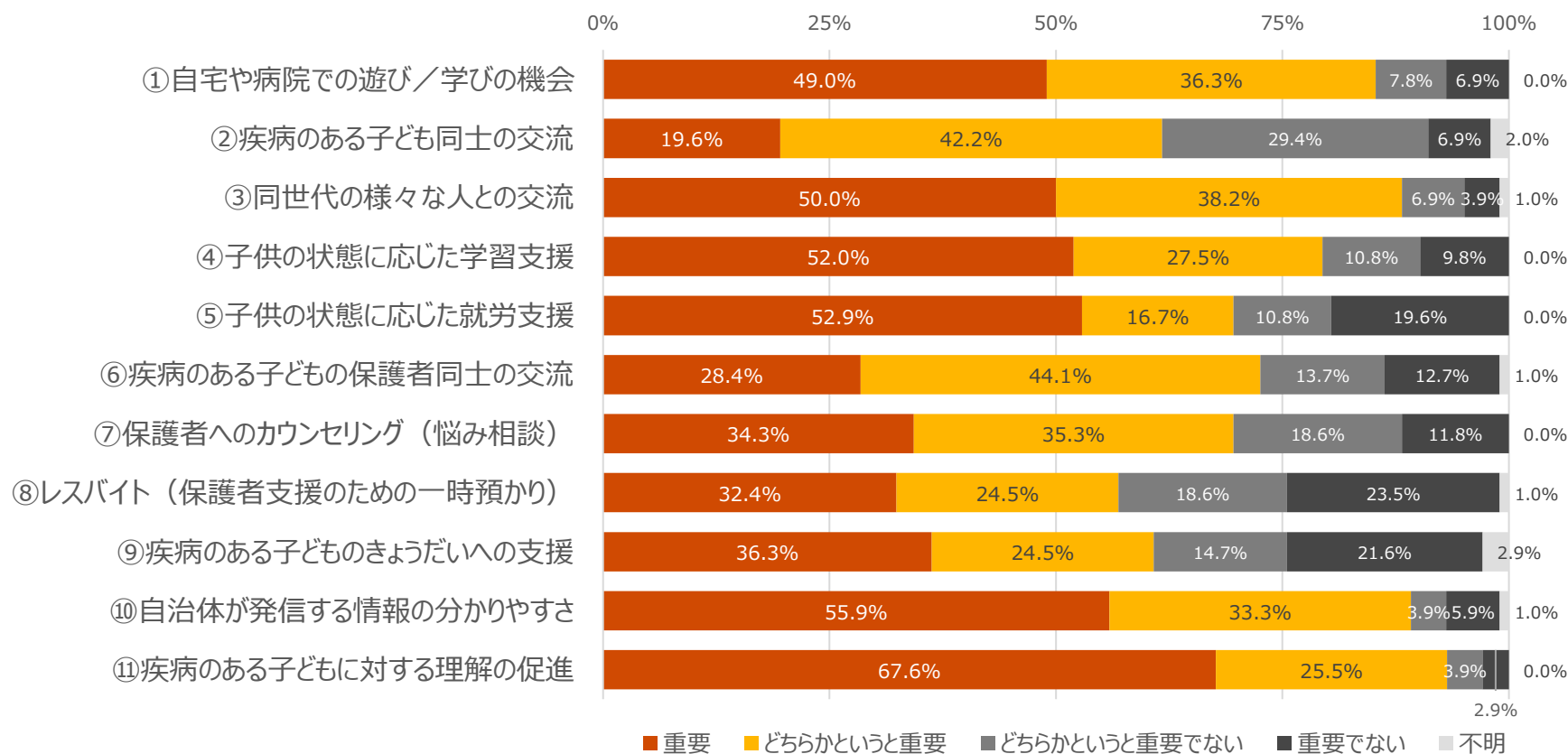
34. 相談できる相手や場所

Q35.お子さまの家庭での生活や学校生活、福祉サービスの利用等について、
あなたが相談できる相手や場所を教えてください。(n=102)



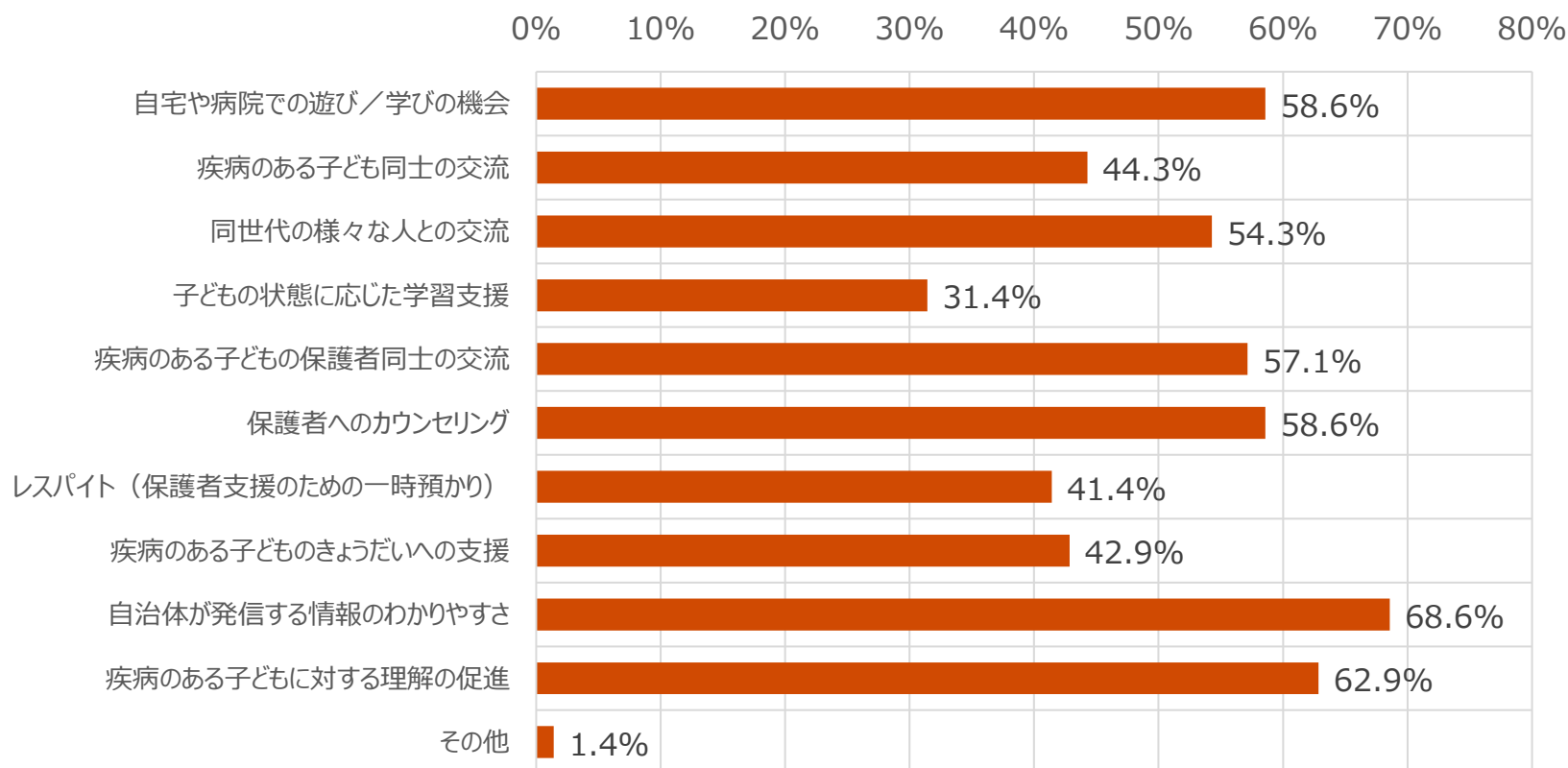
35. こどもの成長や自立のために必要なことの重要度

Q36. お子さまの成長や自立のために現時点で必要なことについて、
あなたにとっての重要度をお答えください。(n=102)



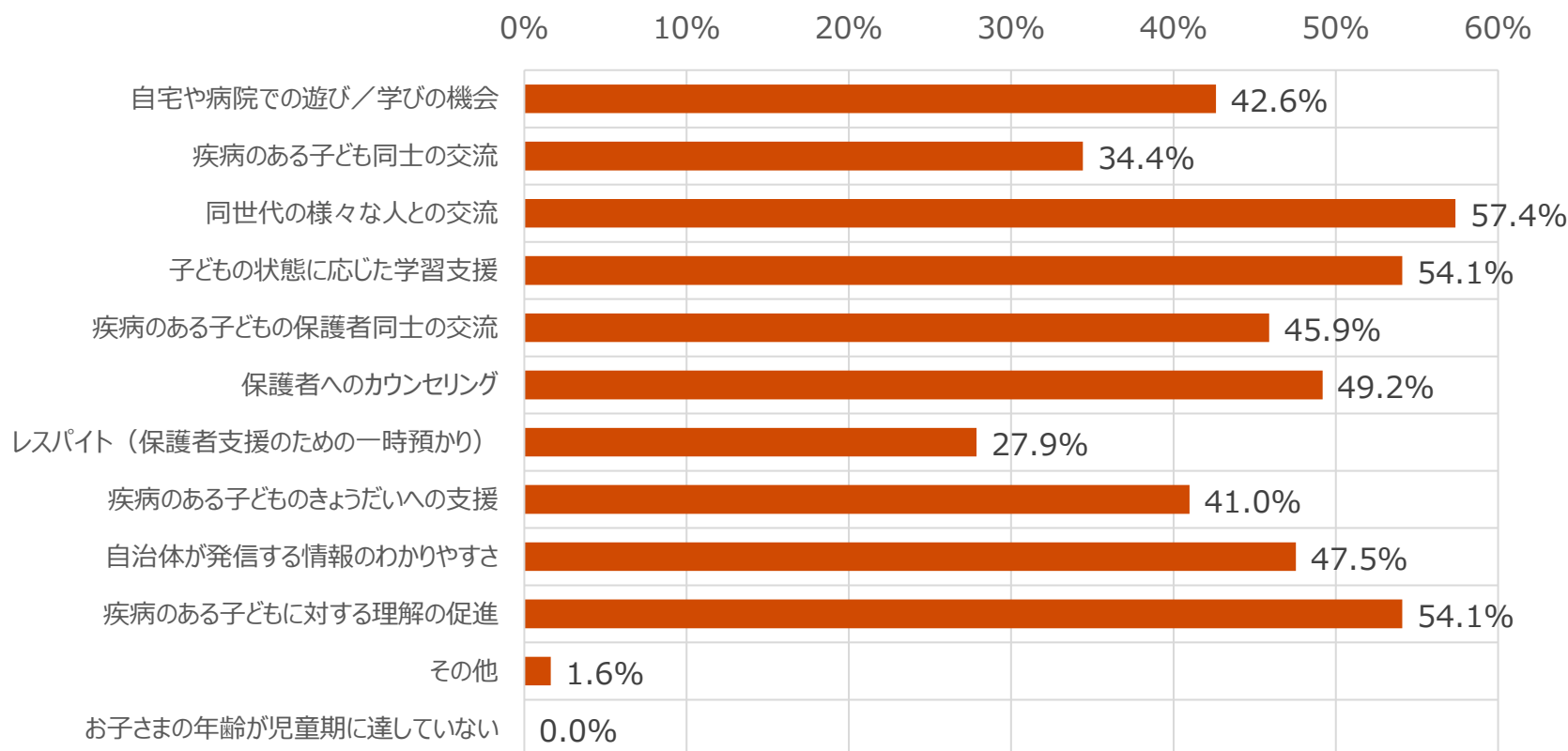
36. 乳幼児期に必要なだったと思う支援やサービス

Q37. お子さまの乳幼児期に必要なだったと思う支援やサービスはありますか。（n=70）



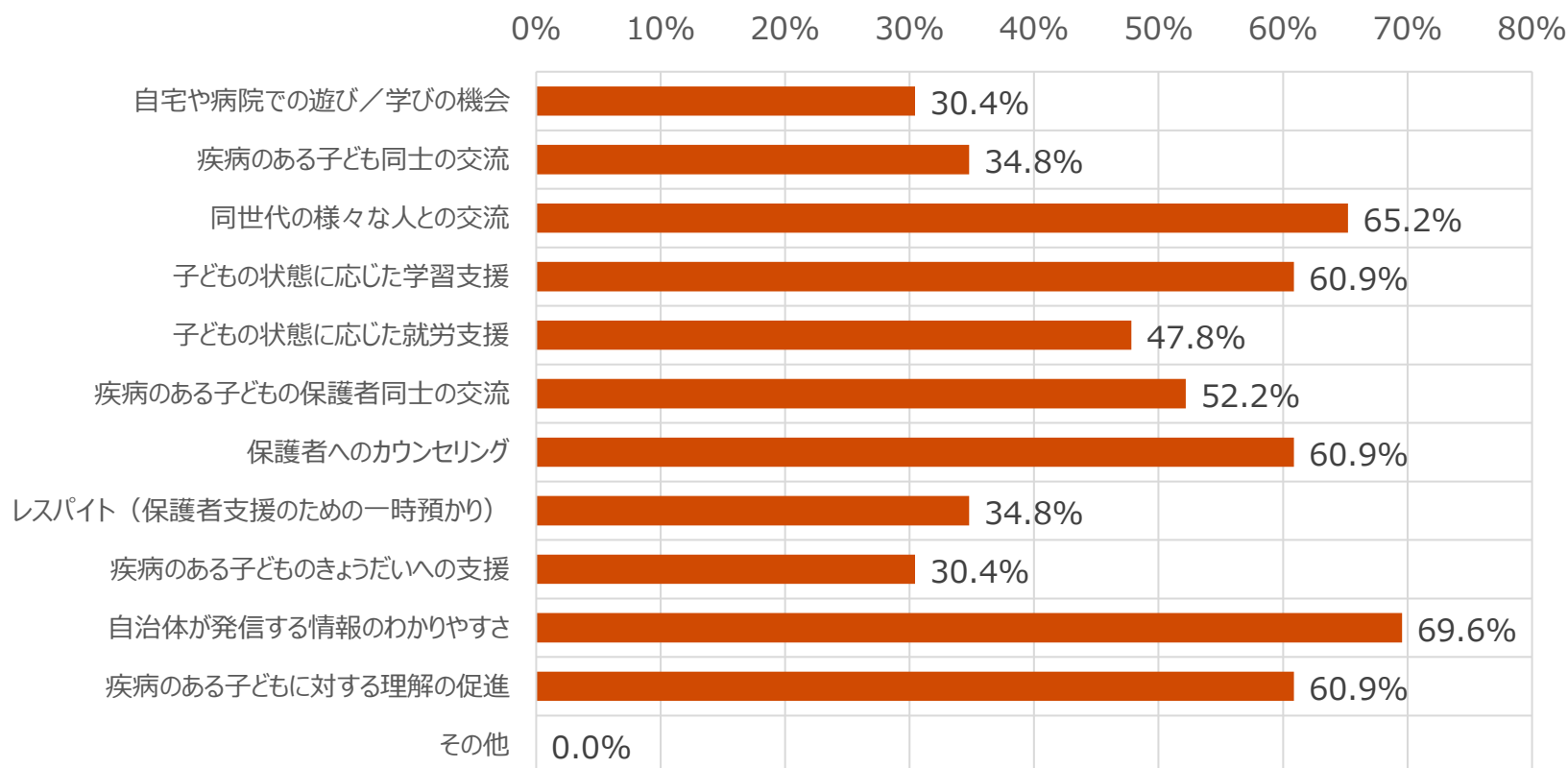
37. 児童期に必要なだったと思う支援やサービス

Q38. お子さまの児童期に必要なだったと思う支援やサービスはありますか。（n=61）



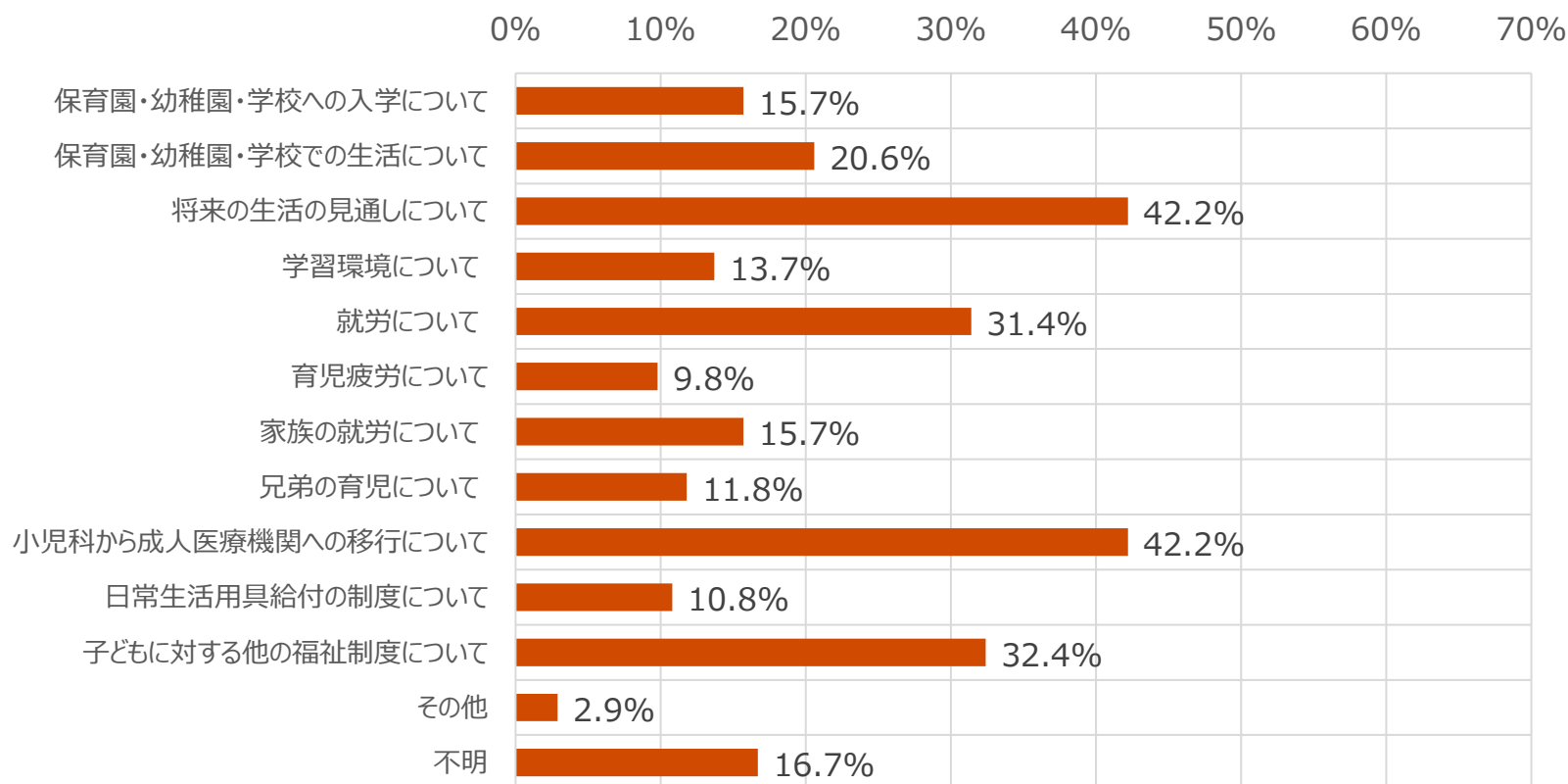
38. 青年期に必要だったと思う支援やサービス

Q39. お子さまの青年期に必要だったと思う支援やサービスはありますか。（n=23）



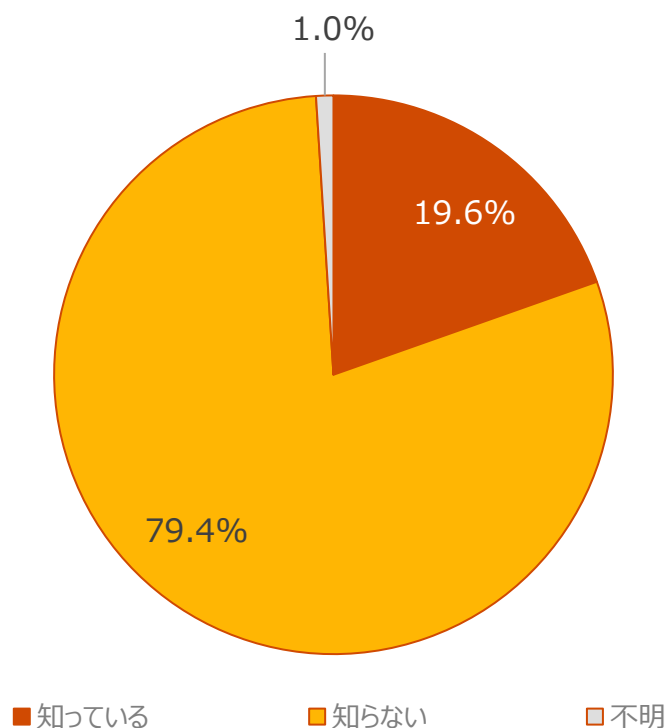
39. こどもの生活全般に関する専用の相談窓口で相談したい内容

Q40 現在熊本県内の保険所及びNPO法人NEXTEPに設置されている「お子さまの生活全般に関する専用の相談窓口」でどのような内容を相談したいですか（n=102）



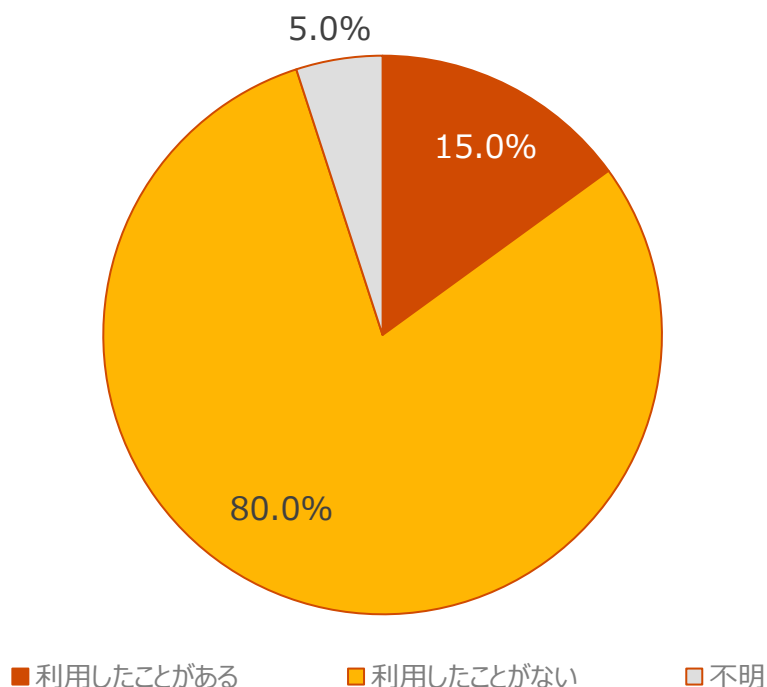
40. こどもの生活全般に関する専用の相談窓口の認知

Q41 現在熊本県内の保険所及びNPO法人NEXTEPに設置されている「お子さまの生活全般に関する専用の相談窓口」を知っていますか。(n=102)



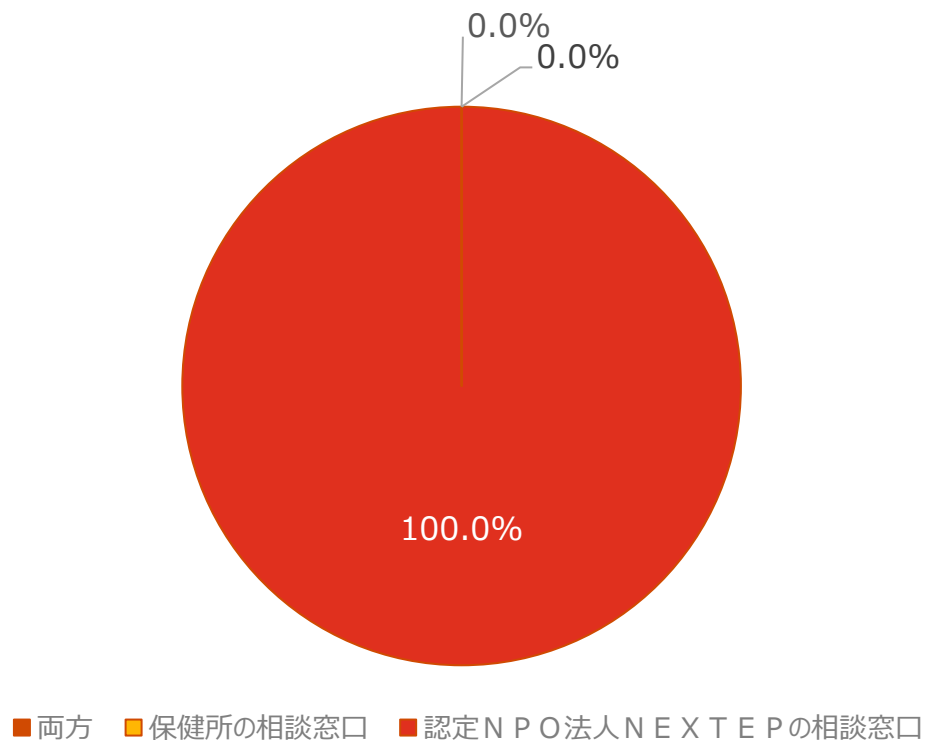
41. こどもの生活全般に関する専用の相談窓口の利用経験

Q42 Q40で「知っている」を選択した場合、相談窓口を利用したことはありますか。(n=20)



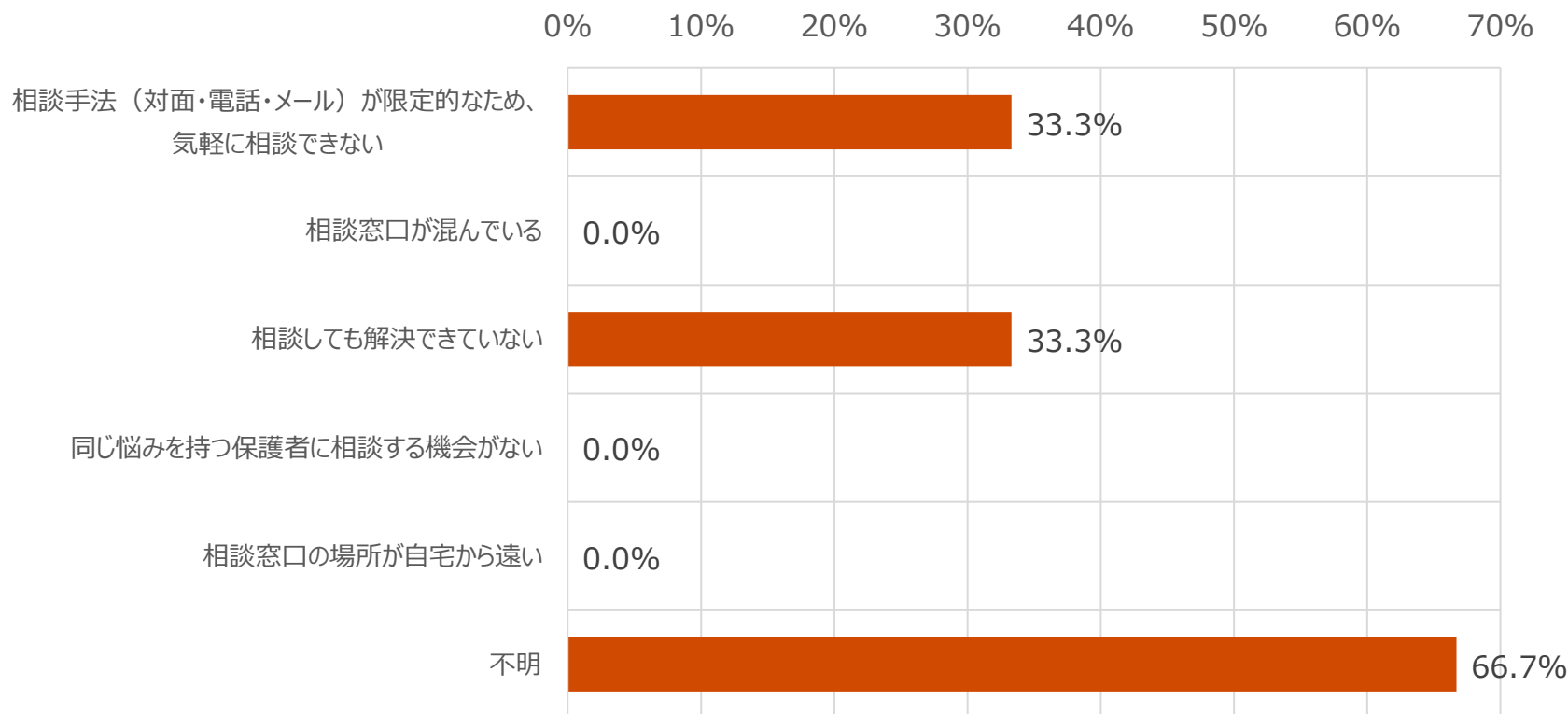
42. 専用の相談窓口が開設された場合の利用

Q43 Q42で「利用したことがある」を選択した場合、
どちらの窓口を利用しましたか。(n=3)



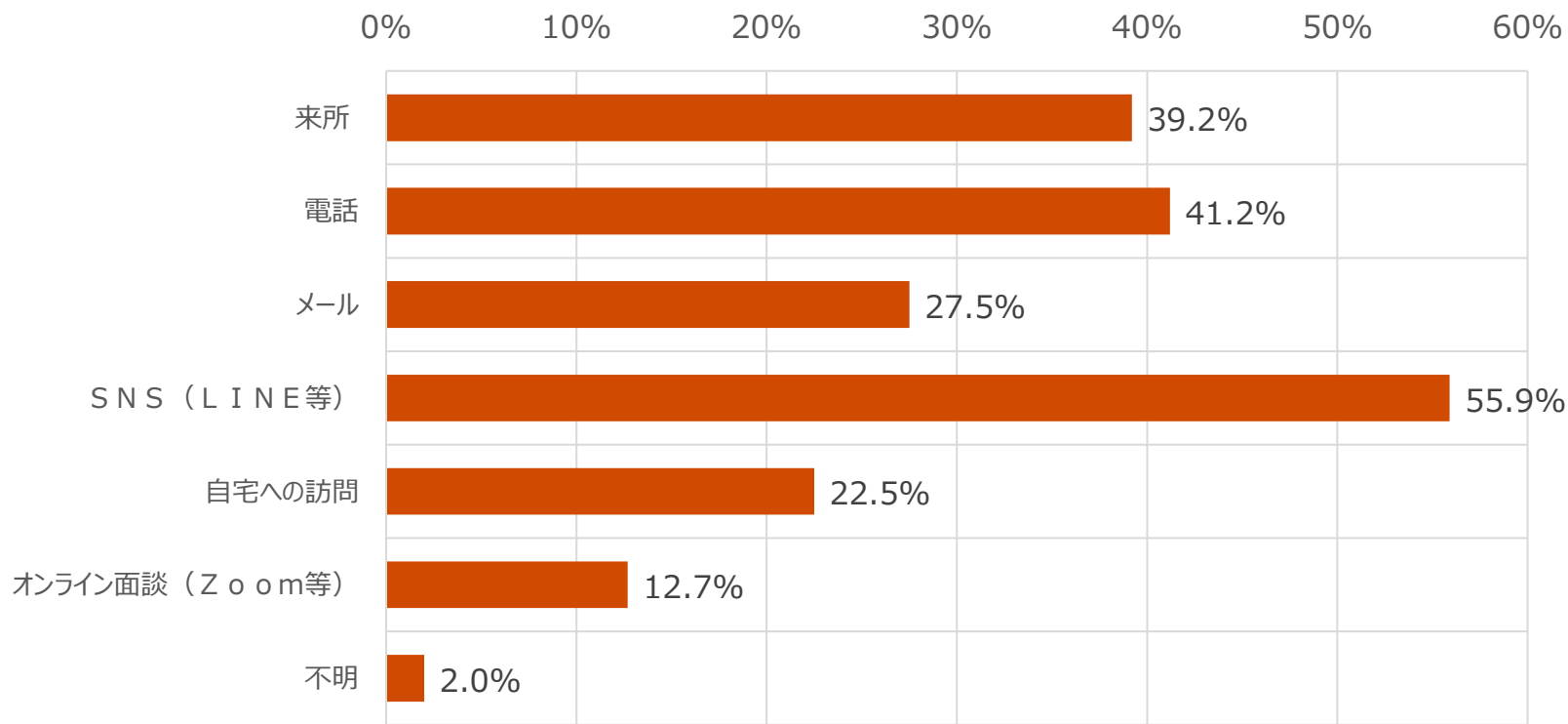
43. 現在の相談体制について困ったこと

Q44 Q42で「利用したことがある」を選択した場合、現在の体制について困っていることはありますか。（n=3）



44. 相談しやすい相談手法

Q45 どのような相談手法が相談しやすいですか。（n=102）



3

保護者向け調査の
クロス集計結果 まとめ

1-1. クロス集計の結果概要

「相談支援事業」「努力義務事業」に関するクロス集計結果を整理いたしました。

クロス集計の結果（全体の傾向）

相談支援事業

- 「NEXTEPへ相談したい内容×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「他の福祉制度」54%「将来の生活の見通し」「就労」50%、ない場合は「成人医療機関への移行」53%「将来生活の見通し」「就労」51%。

→医療的ケア・障害者手帳の有無に関わらず「将来の生活の見通し」「就労」の相談ニーズは高い。「他の福祉制度」は、医療的ケア・障害者手帳がある場合はない場合に比べて21ポイント高かった。

- 「相談窓口の認知度×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「知っている」と回答したのは27%、ない場合は「知っている」と回答したのは17%。

→医療的ケア・障害者手帳がある場合は、ない場合に比べて相談窓口の認知度は10ポイント高かった。

努力義務事業

- 「乳幼児期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」68%「遊び/学びの機会」「理解促進」64%、ない場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」69%「理解促進」63%。

→医療的ケア・障害者手帳の有無に関わらず「自治体が発信する情報のわかりやすさ」「理解促進」のニーズは高かった。「遊び/学びの機会」は、医療的ケア・障害者手帳がある場合はない場合に比べて7ポイント高かった。

- 「児童期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「同世代交流」「レスパイト」64%、ない場合は「同世代交流」55%「学習支援」「理解促進」53%でした。

→医療的ケア・障害者手帳の有無に関わらず「同世代交流」のニーズは高かった。「レスパイト」は、医療的ケア・障害者手帳がある場合はない場合に比べて47ポイント高かった。

1-2. クロス集計の結果概要

「相談支援事業」「努力義務事業」に関するクロス集計結果を整理いたしました。

クロス集計の結果（全体の傾向）

努力義務事業

- 「青年期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「同世代交流」「学習支援」「保護者カウンセリング」「レスパイト」「自治体が発信する情報のわかりやすさ」63%、ない場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」73%「同世代交流」「理解促進」67%でした。
→医療的ケア・障害者手帳の有無に関わらず「同世代交流」「自治体が発信する情報のわかりやすさ」のニーズは高かった。「レスパイト」は、医療的ケア・障害者手帳がある場合はない場合に比べて43ポイント高かった。
- 「不安や悩みの有無×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「ある」「どちらかというところ」と回答したのは72%、ない場合は「ある」「どちらかというところ」と回答したのは40%でした。
→医療的ケア・障害者手帳がある場合は、ない場合に比べて、不安や悩みがあると回答したのは32ポイント高かった。
- 「不安や悩みの内容×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「子どもの病気の悪化」「災害時の対応」「子どもの将来の介護・看護」72%、ない場合は「成長・発育・発達」63%「子どもの病気の悪化」「自分の就労や働き方」60%でした。
→医療的ケア・障害者手帳の有無に関わらず「子どもの病気の悪化」と回答した割合が高かった。医療的ケア・障害者手帳がある場合はない場合に比べて「災害時の対応」は42ポイント、「子どもの将来の介護・看護」は22ポイント高かった。
- 「就労に関する不安の有無×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「ある」と回答したのは50%、ない場合は「ある」と回答したのは39%でした。
→医療的ケア・障害者手帳がある場合は、ない場合に比べて、就労に関する不安や悩みがあると回答したのは11ポイント高かった。

4

保護者向け調査の
クロス集計結果 資料

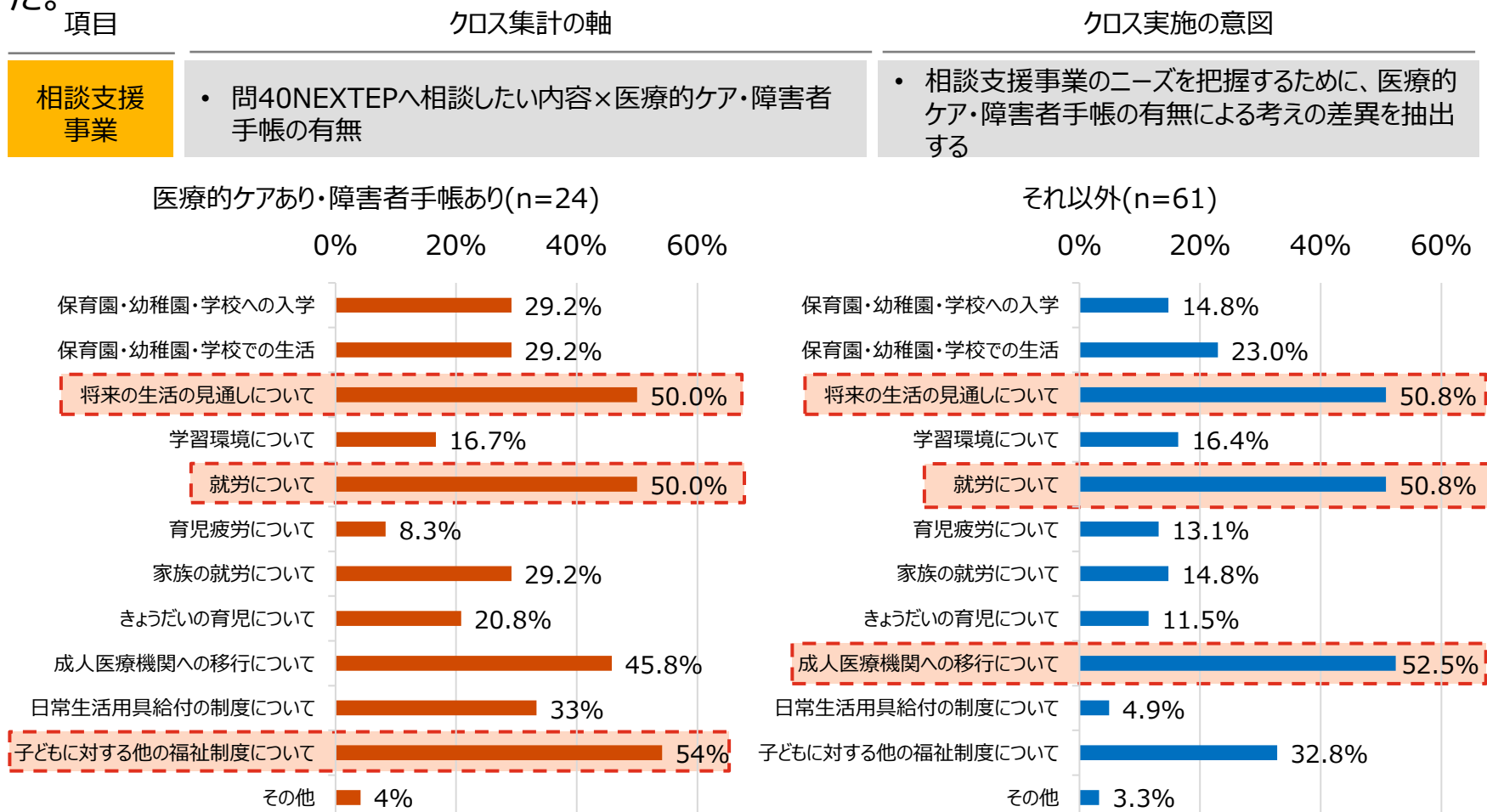
1. クロス集計軸の一覧

単純集計結果を踏まえ、ニーズの差異や新たなニーズを明らかにすることを目的として、以下の内容でクロス集計を実施しました。

項目	クロス集計の軸	クロス実施の意図
相談支援事業	問40NEXTEPへ相談したい内容×医療的ケア・障害者手帳の有無	相談支援事業のニーズを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する
	問41相談窓口の認知度×医療的ケア・障害者手帳の有無	
努力義務事業	問37乳幼児期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無	支援やサービスのニーズを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する
	問38児童期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無	
	問39青年期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無	
	問19不安や悩みの有無×医療的ケア・障害者手帳の有無	不安や悩みを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する
	問20不安や悩みの内容×医療的ケア・障害者手帳の有無	
	問25就労に関する不安の有無×医療的ケア・障害者手帳の有無	就労の不安や悩みを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する

2-1. 相談支援事業に関するクロス集計

「NEXTEPへ相談したい内容×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「他の福祉制度」54%「将来の生活の見通し」「就労」50%、ない場合は「成人医療機関への移行」53%「将来生活の見通し」「就労」51%でした。

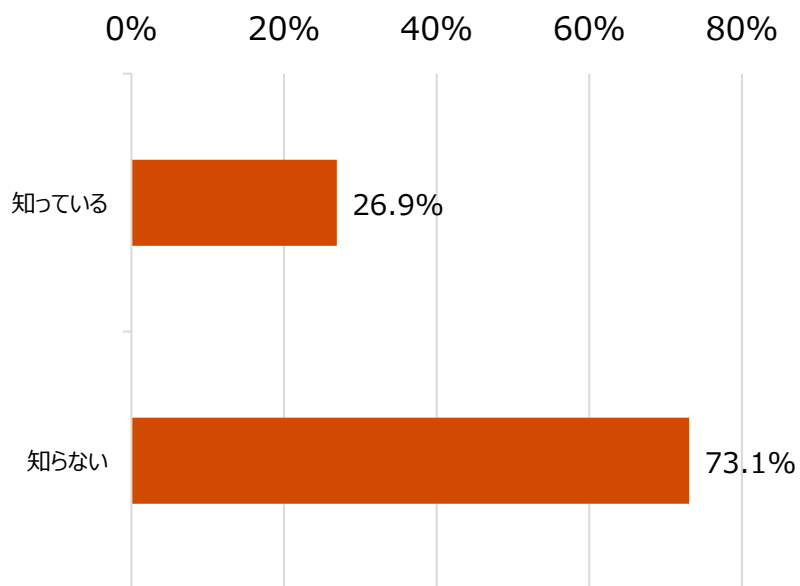


2-2. 相談支援事業に関するクロス集計

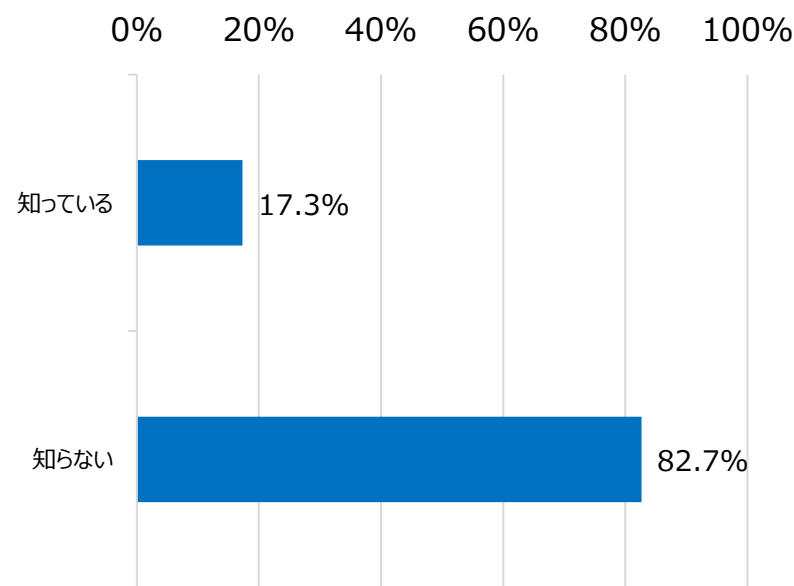
「相談窓口の認知度×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「知っている」と回答したのは27%、ない場合は「知っている」と回答したのは17%でした。

項目	クロス集計の軸	クロス実施の意図
相談支援事業	問41相談窓口の認知度×医療的ケア・障害者手帳の有無	相談支援事業のニーズを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する

医療的ケアあり・障害者手帳あり(n=26)

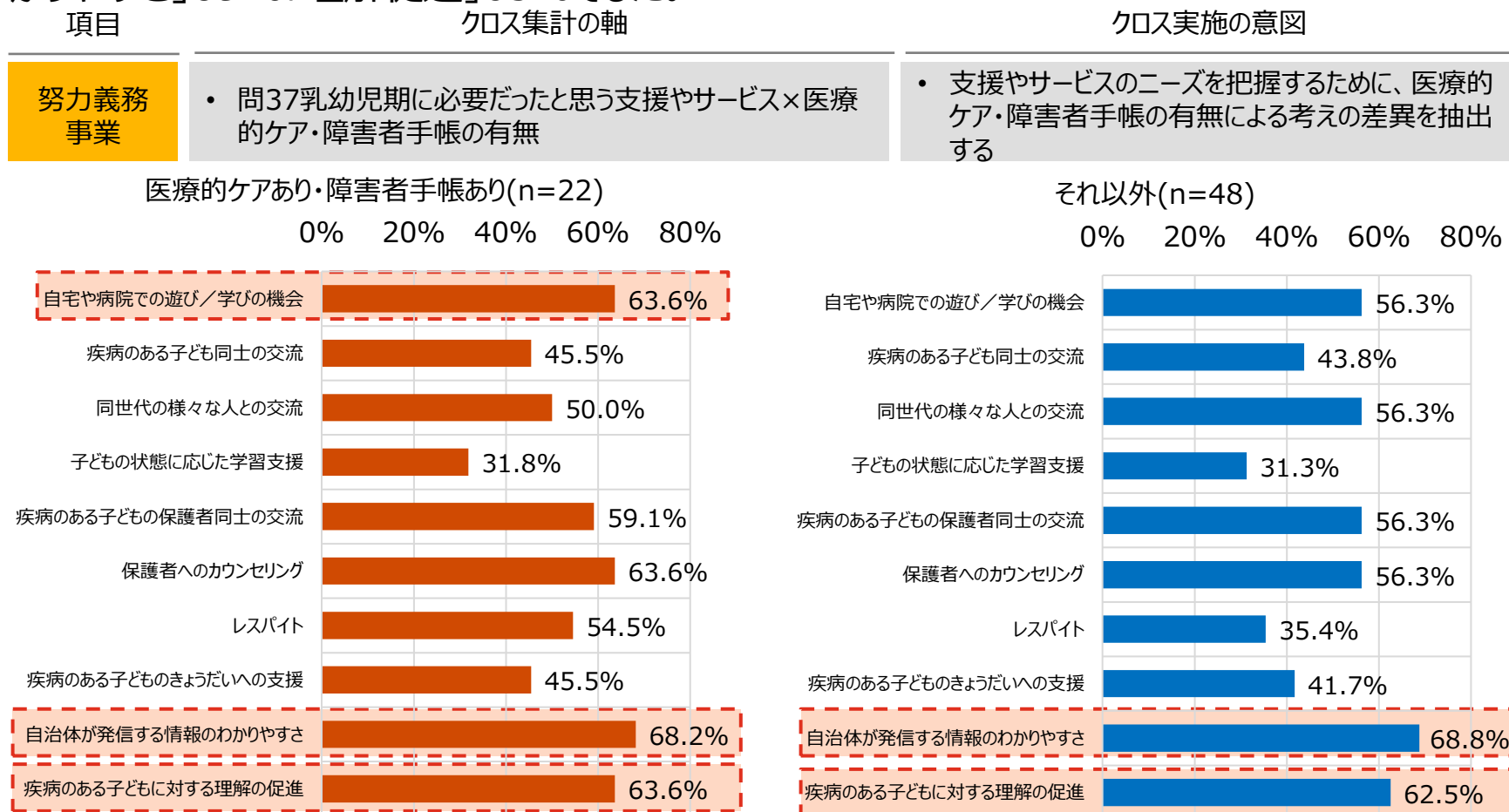


それ以外(n=75)



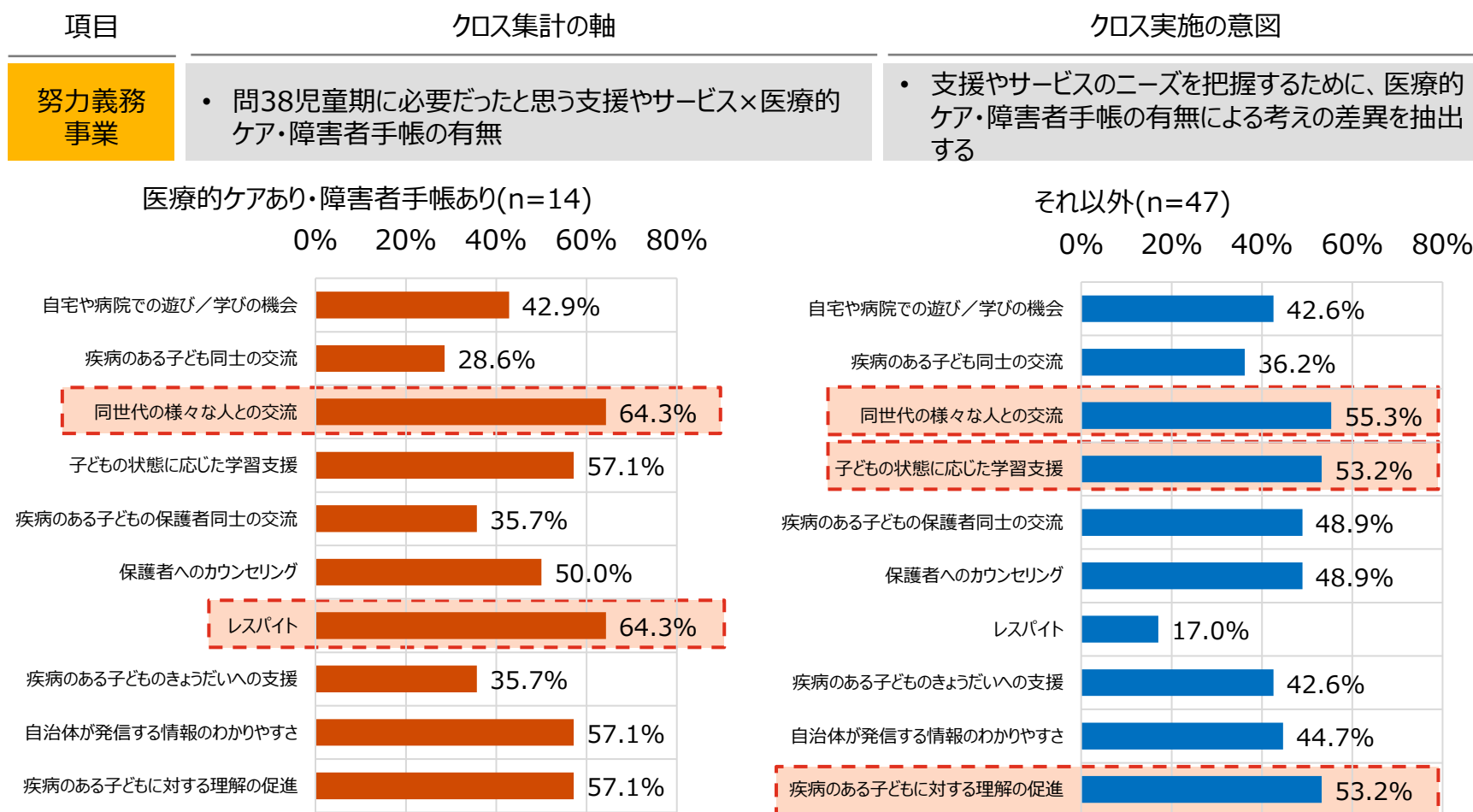
3-1. 努力義務事業に関するクロス集計(支援やサービス)

「乳幼児期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」68%「遊び/学びの機会」64%、理解促進」64%、ない場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」69%「理解促進」63%でした。



3-2. 努力義務事業に関するクロス集計(支援やサービス)

「児童期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「同世代交流」「レスパイト」64%、ない場合は「同世代交流」55%「学習支援」「理解促進」53%でした。



3-3. 努力義務事業に関するクロス集計(支援やサービス)

「青年期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「同世代交流」「学習支援」「保護者カウンセリング」「レスパイト」「自治体が発信する情報のわかりやすさ」63%、ない場合は「自治体が発信する情報のわかりやすさ」73%「同世代交流」「理解促進」67%でした。

項目

クロス集計の軸

クロス実施の意図

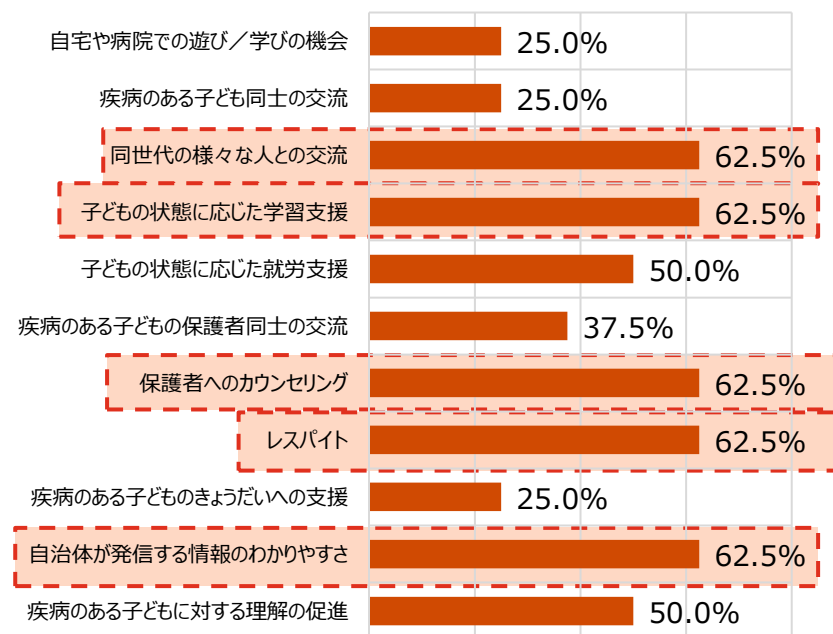
努力義務事業

- 問39青年期に必要だったと思う支援やサービス×医療的ケア・障害者手帳の有無

- 支援やサービスのニーズを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する

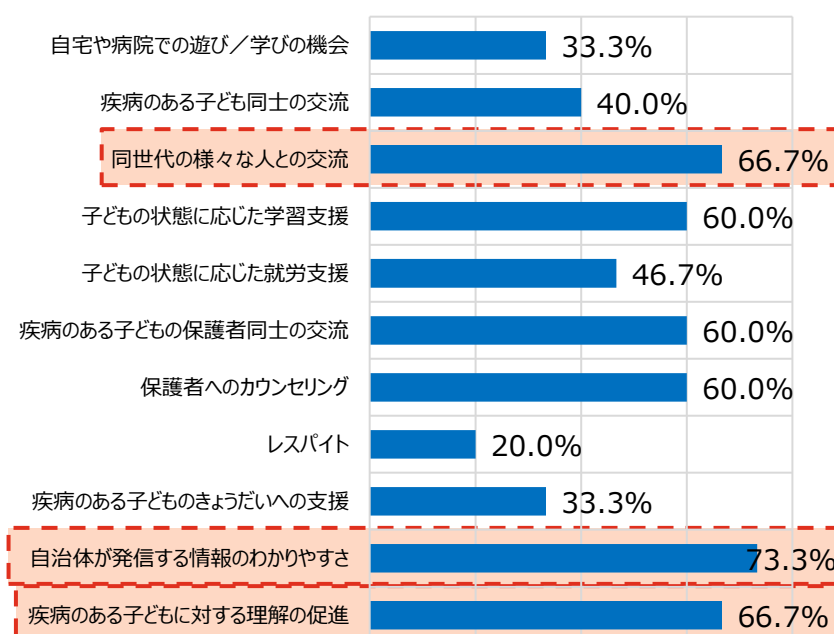
医療的ケアあり・障害者手帳あり(n=8)

0% 20% 40% 60% 80%



それ以外(n=15)

0% 20% 40% 60% 80%

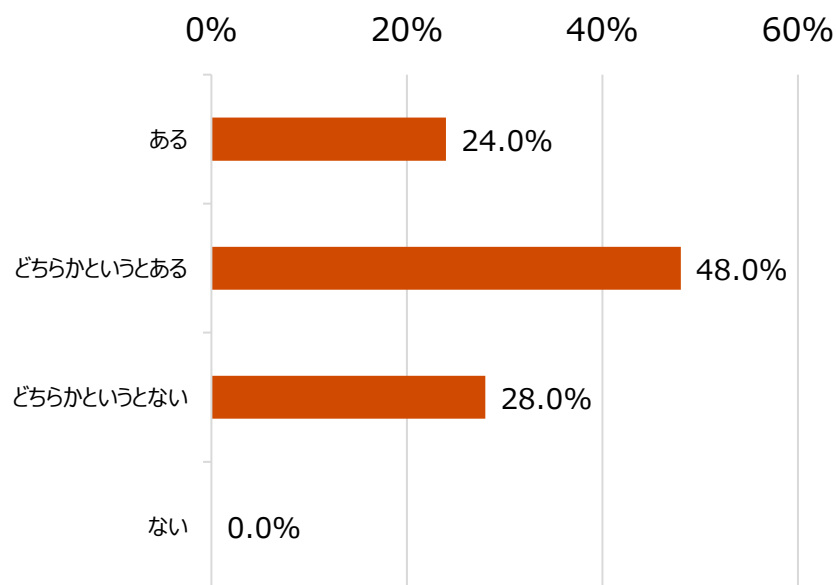


4-1. 努力義務事業に関するクロス集計(不安や悩み)

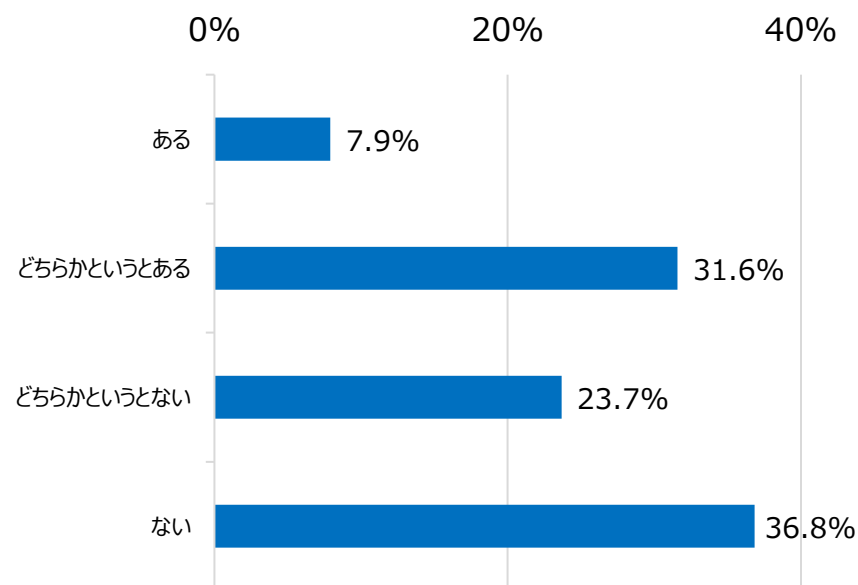
「不安や悩みの有無×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「ある」「どちらかというところ」と回答したのは72%、ない場合は「ある」「どちらかというところ」と回答したのは40%でした。

項目	クロス集計の軸	クロス実施の意図
努力義務事業	問19不安や悩みの有無×医療的ケア・障害者手帳の有無	不安や悩みを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する

医療的ケアあり・障害者手帳あり(n=25)

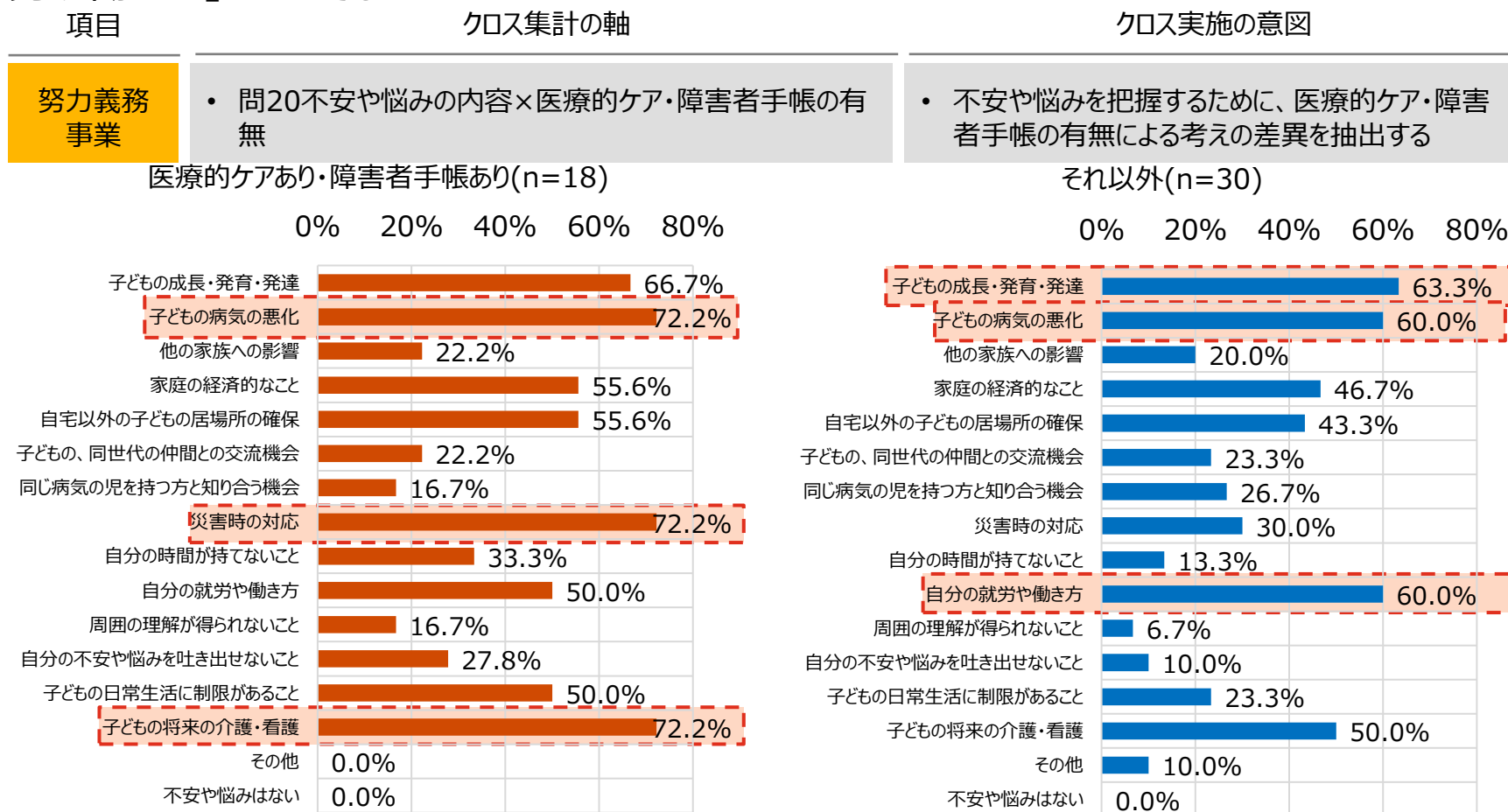


それ以外(n=76)



4-2. 努力義務事業に関するクロス集計(不安や悩み)

「不安や悩みの内容×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「子どもの病気の悪化」「災害時の対応」「子どもの将来の介護・看護」72%、ない場合は「成長・発育・発達」63%「子どもの病気の悪化」「自分の就労や働き方」60%でした。

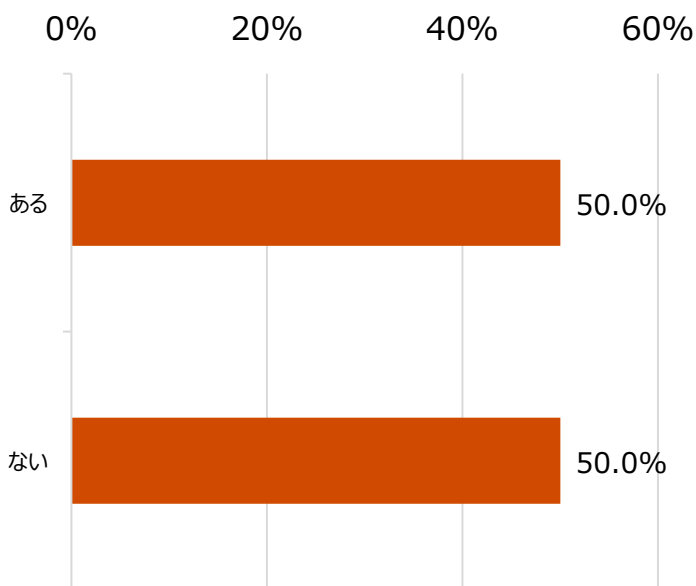


4-3. 努力義務事業に関するクロス集計(不安や悩み)

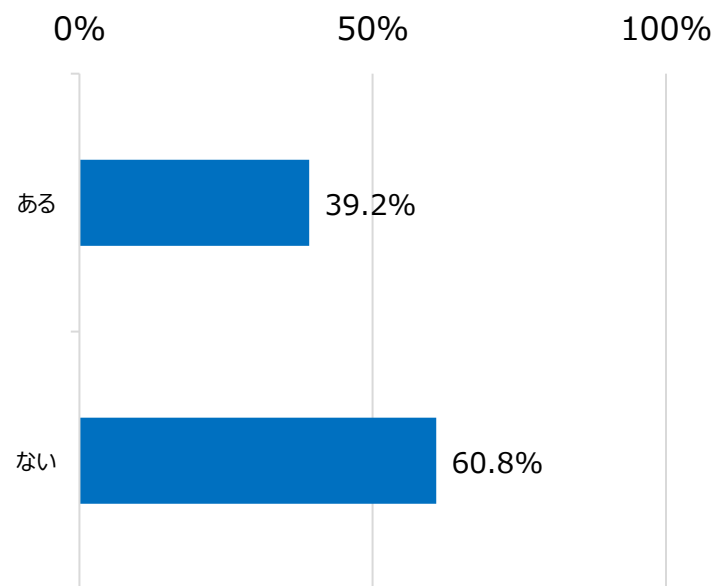
「就労に関する不安の有無×医療的ケア・障害者手帳の有無」のクロス集計結果は、医療的ケア・障害者手帳がある場合は「ある」と回答したのは50%、ない場合は「ある」と回答したのは39%でした。

項目	クロス集計の軸	クロス実施の意図
努力義務事業	問25就労に関する不安の有無×医療的ケア・障害者手帳の有無	就労の不安や悩みを把握するために、医療的ケア・障害者手帳の有無による考えの差異を抽出する

医療的ケアあり・障害者手帳あり(n=24)



それ以外(n=74)

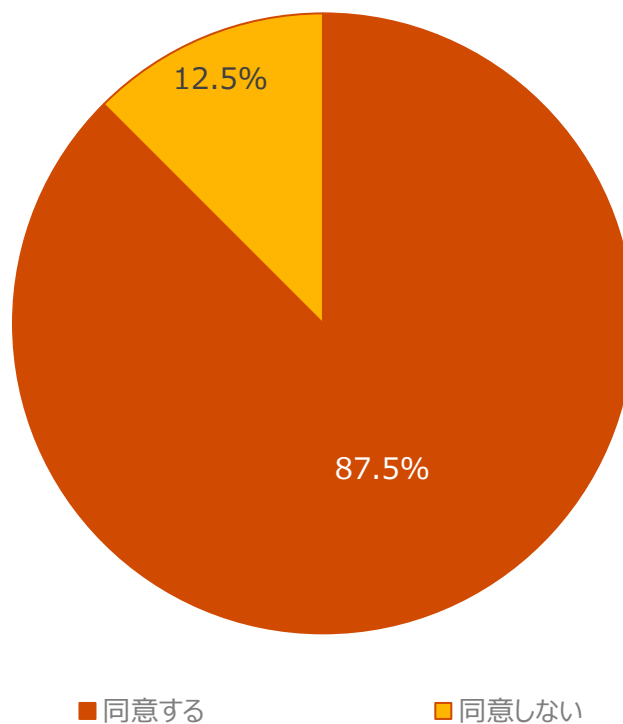


5

子ども向け調査の
単純集計結果 資料

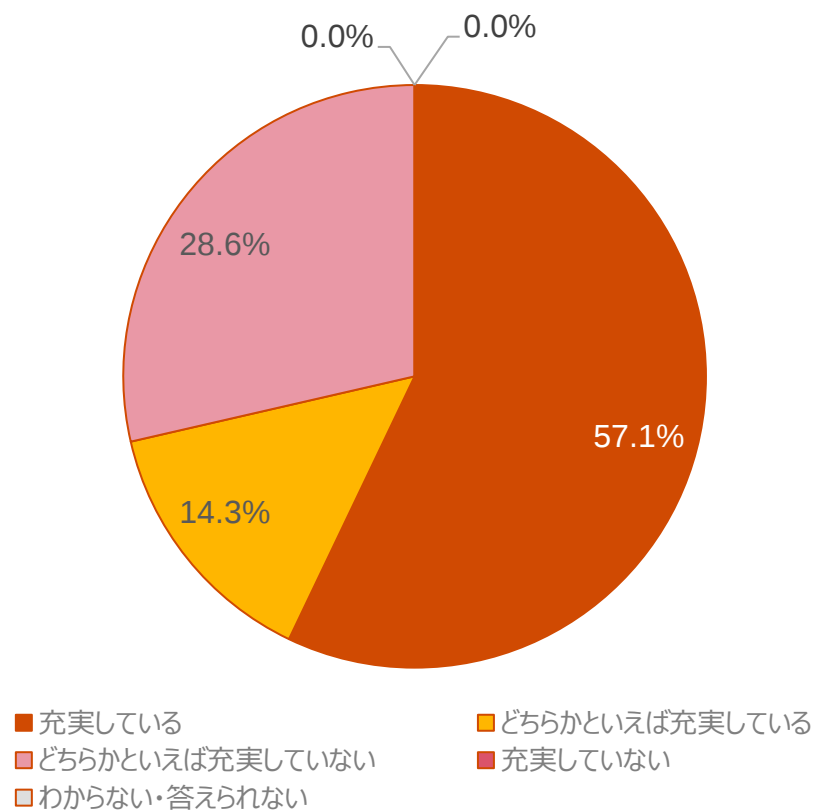
1. アンケートへの同意

1. お子さまのアンケート回答に同意いただけますか。(n=8)



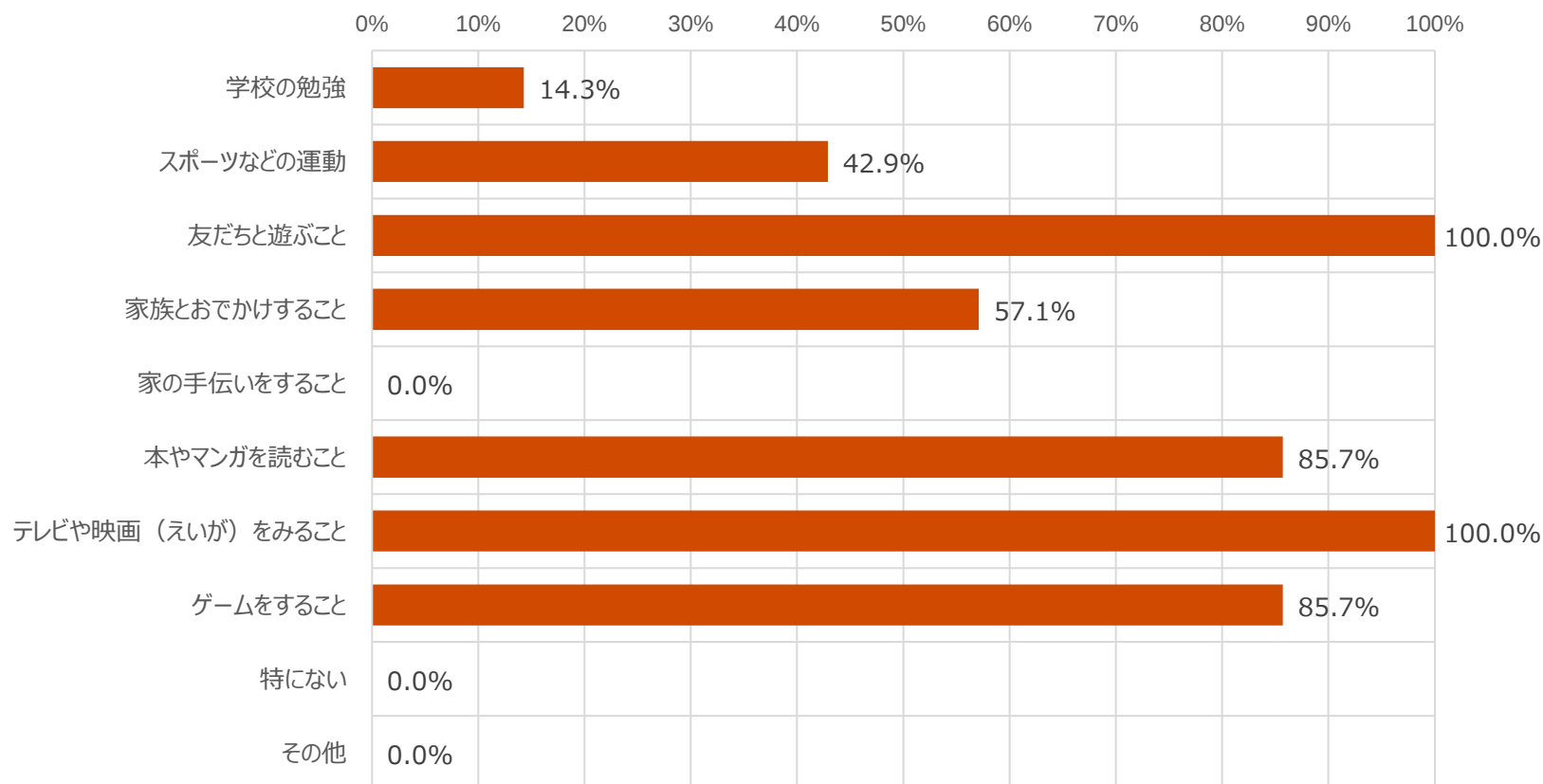
2. 生活の充実度

問子-1 あなたは、いまの生活が充実していると思いますか。(n=7)



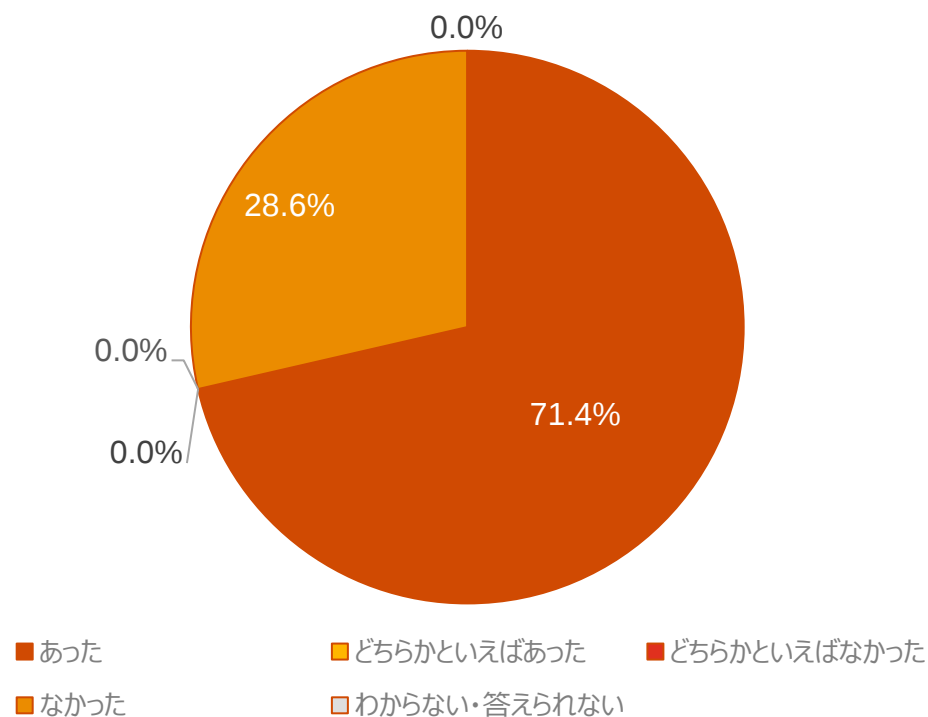
3. いまの生活の中で楽しいこと

問子-2 いまの生活の中で、楽しいことは何ですか。(n=7)



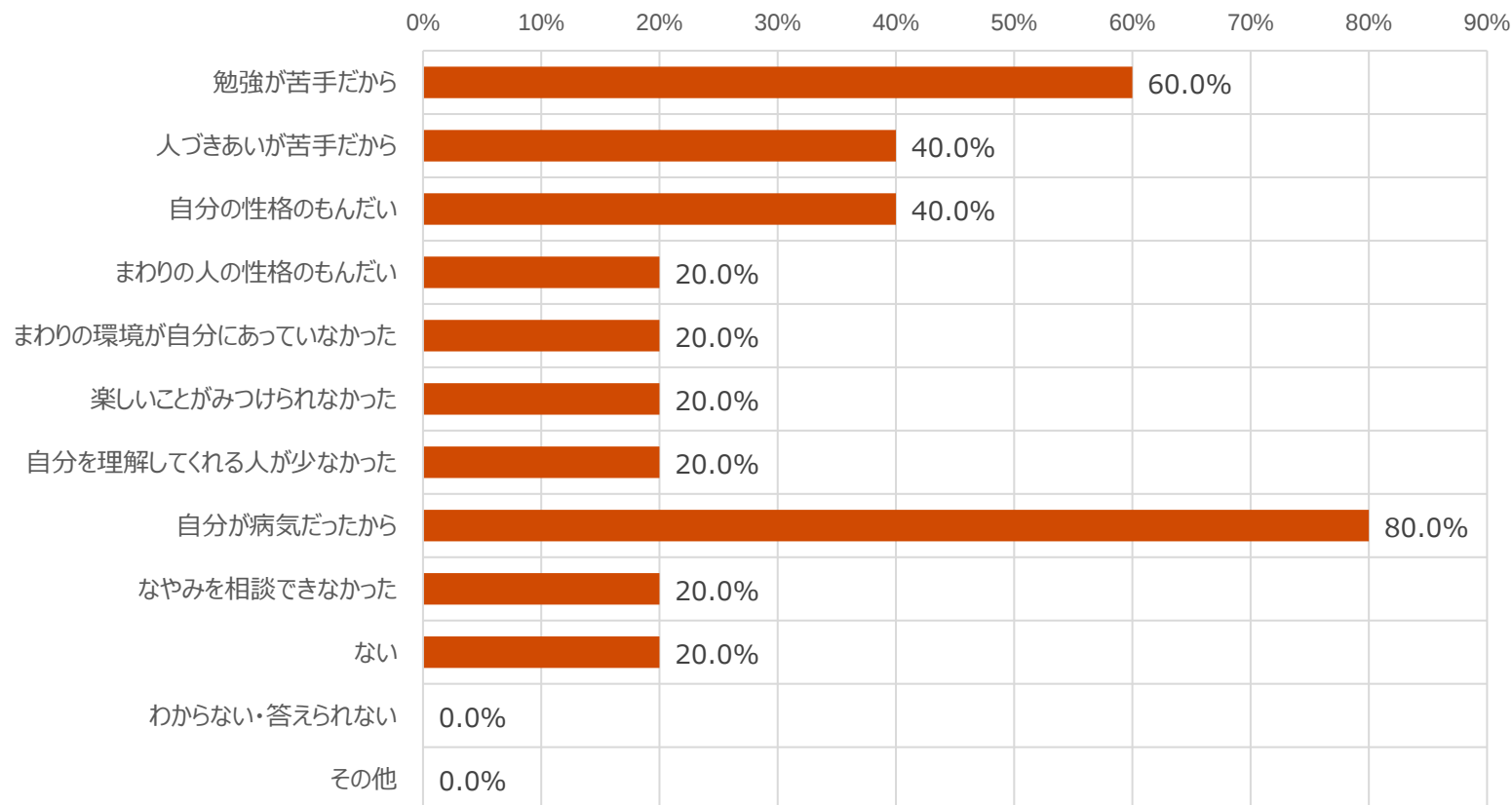
4. ふだんの生活や学校での生活を思い通りにできなかった経験

問子-3 いままでに、ふだんの生活や学校での生活を、あなたの思いどおりにできなかったことがあったと思いますか。(n=7)



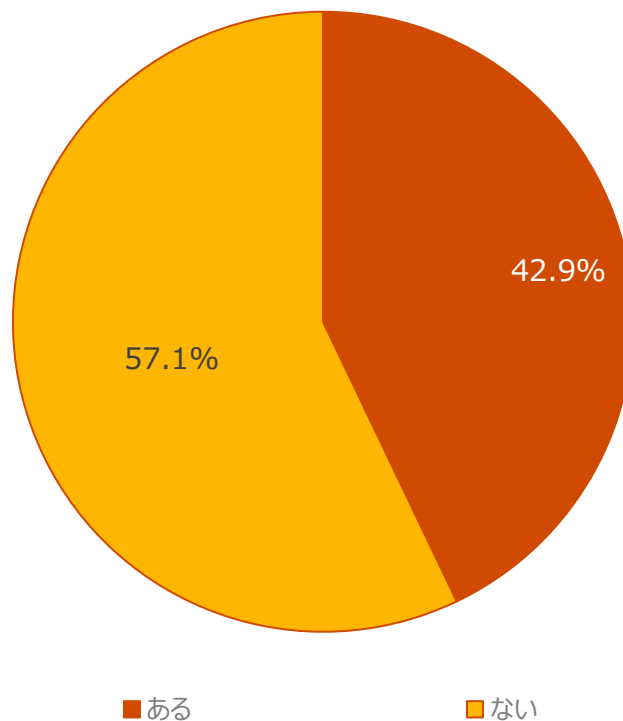
5. 思い通りにできなかった理由

問子-4 そう思う理由を教えてください。(n=5)



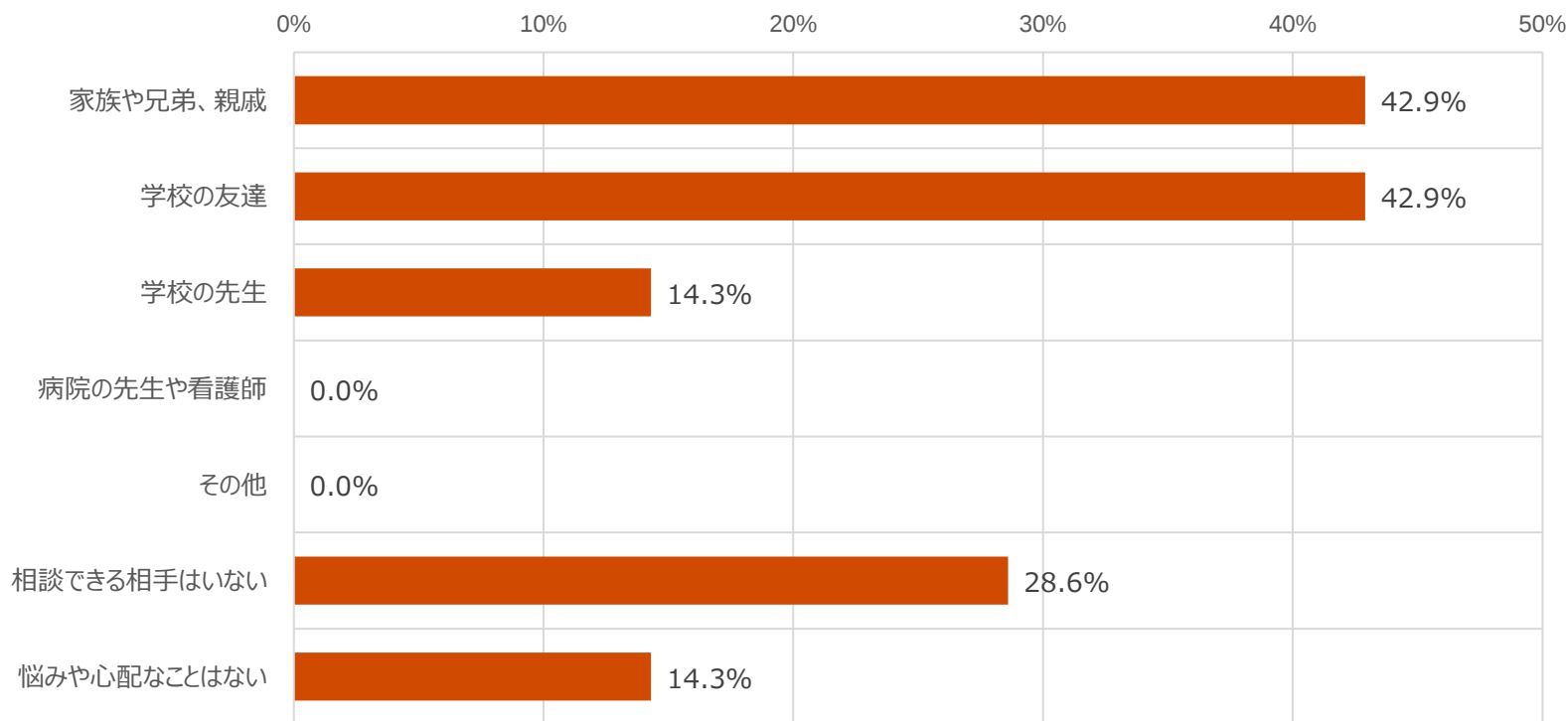
6. 今の生活での悩みや心配

子-7.今の生活で悩みや心配なことはありますか。(n=7)



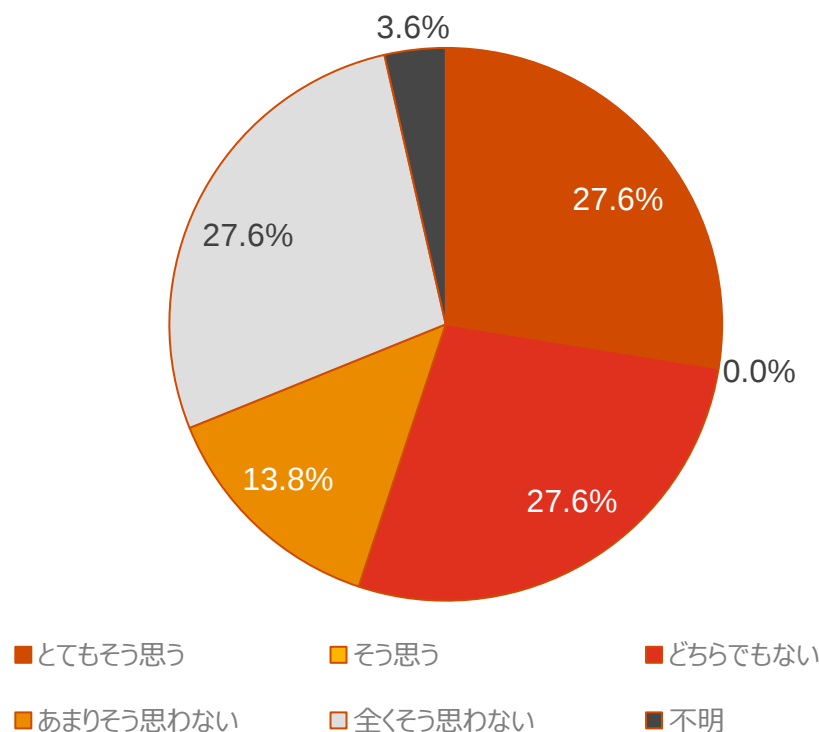
7. 悩みや心配なことがあるとき、相談できる相手

問子-9 悩みや心配なことがあるとき、相談できる相手はいますか。(n=7)



8. 悩みや相談があるとき、専用の相談窓口の利用希望

問子-10 悩みや相談があるとき、専用の相談窓口があれば、
利用したいと思いますか。(n=7)



Thank you

www.pwc.com/jp

© 2024 PricewaterhouseCoopers Japan LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.